

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名	グループホーム 丹原の郷
(ユニット名)	南町
記入者(管理者)	
氏名	濱田 寿男
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 4 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供します。</p> <p>2. 一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供出来るように努めます。</p> <p>3. 主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るように援助します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだ事・その結果】</p> <p>〇コロナ過で、会合や会議・集会が中止になり、地域防災訓練にも参加できていない。収束すれば、家族や地域住民に來訪していただき、消火訓練等に参加してもらいたいと思っている。また、地域で開催される防災訓練等にも参加したいと思っている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市の郊外にある開設から20年目を迎える事業所は、近隣住民に浸透してきている。事業所周辺は田園が多く、庭にはバラや藤などの季節の花が植えられ、利用者や来訪者は四季の移ろいを感じる事ができる。コロナ禍以前は、多くの外出行事を取り入れ、様々な場所に出かけることができていたが、コロナ禍において、外出制限が設けられ、外出する機会が減っているものの、事業所周辺の環境を活かして、日頃から散歩したり、庭に出て外気浴をしたり、病院の受診時に遠回りをして、海岸線をドライブを楽しんだりするなど、利用者が少しでも気分転換を図れるよう支援している。また、感染状況を見計らいながら、家族にはガラス越しの面会に対応するほか、リモート面会にも対応している。さらに、年4回あたご通信を発行するとともに、毎月利用者の状況を記載した日常生活報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。加えて、事業所には介護ソフトが導入され、年配の職員は、タブレットの活用による不安や負担を感じる場合があるものの、使いこなしながら、職員の負担軽減に繋がっている。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の会話の中から希望を聞き、職員で話合っている。	◎	/	○	入居前に、管理者等は自宅や施設を訪問して、利用者や家族から、思いや暮らし方の希望、意向などを聞いています。また、日々の何気ない会話の中から、担当職員は利用者から思いなどを聞くよう努めるとともに、家族から電話連絡時等を活用して、好みなどの情報を聞くようにしています。さらに、把握した内容は独自のアセスメントシートに記載し、職員間の共有に努めています。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員間で本人の視点に立て、意見を出し合う様になっている。	/	/	/	/		
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚の電話時に本人の好きな事や、希望・意向を聞き出している。	/	/	/	/		
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常会話から、食べたい物や、やりたい事等日常生活記録に記載している。	/	/	/	/		
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日常から、思い込みが起らないように、職員間で良く話合っている。	/	/	/	/		
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。	/	/	○	入居前に、管理者等は自宅や施設等を訪問して、独自のアセスメントシートやできること・できないシートを活用して、利用者や家族から馴染みの暮らし方や生活歴などの聞き取りをしている。コロナ禍において、病院等に入所している場合は、面会することができないことがあり、管理者等が窓越しに利用者の様子を観察するほか、病院等の関係者から入院した経緯などを聞いたり、サマリーなどの情報の提供を受けたりすることもある。また、日々の生活の中で、担当職員は利用者から新たな情報を聞き取るよう努めている。中には、発言することが難しい利用者もあり、職員は行動や様子を観察したり、家族等から好みや趣味などの新たな情報を聞いたりするなど、少しでも多くの情報収集に努めている。加えて、把握した情報は独自のアセスメントシートに記載するとともに、介護計画の更新時には、シートなどの情報の更新に努めている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事・できない事シートを活用し、状態が変わればその都度話合っている。	/	/	/	/		
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の生活の中での様子を記録し、職員間で引き継ぎ情報共有している。	/	/	/	/		
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話合っている。必要に応じて、その日の出勤者でも話合っている。	/	/	○	事前に、担当職員が利用者や家族から意見を聞くほか、往診時に医師や看護師から指示やアドバイスをもらい、事前に把握した情報をもとに、ケアカンファレンスを活用して、職員間で課題を把握するほか、より良く暮らすためのサービス提供などを検討している。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	ユニット会で職員間で検討している。電話時には主介護者様にも適宜相談している。	/	/	/	/		
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話合っ介護計画を作成している。	/	/	/	コロナ禍において、面会制限が設けられているため、家族や関係者が参加したケアカンファレンスの開催はできておらず、事前に担当職員等が利用者や家族から意見を聞くとともに、関係者から指示やアドバイスをもらっている。また、把握した情報やモニタリング等の情報をもとに、ユニット会を活用してケアカンファレンスを開催し、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者や家族の意向が反映された計画となるよう努めている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	3か月に1回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で、介護計画を作成している。	◎	◎	/	/		
c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し身体状況、食事量、水分量、排泄等の記録をして状況に応じている。	/	/	/	/		
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	コロナ過で会議は出来ていないが、電話で運営推進会議メンバーの方と意見交換をしている。	/	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを3か月に1度見直している。状態が変わればその都度見直している。	/	/	/	○ 担当職員等は、ケアカンファレンスに参加して、介護計画に内容の把握に努めるとともに、参加できなかった職員には、作成した計画のコピーを手渡し、計画作成担当者が変更点などの説明をしている。また、個別のファイルを事務所に置くとともに、タブレットを活用して、いつでも計画を確認できるようになっている。また、事業所には介護ソフトが導入されており、タブレットを活用して、井や番号を記載して、生活記録等に計画に沿ったサービス内容を記録することができている。さらに、普段と変わった言動などを細かく記載することもできている。年配の職員は、タブレットの活用不安や負担を感じる場合があるものの、使いこなしながら、職員の負担軽減に繋がっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記載し、介護計画にそって日々の支援を行っている。実行できた事項を確認している。	/	/	/	◎
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に1度見直しを行っている。状態変化がなければ6か月後に作成している。	/	/	/	◎
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会や日々の申し送りで、一人ひとり利用者の変化等について話合っている。	/	/	/	△
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をし適宜見直している。	/	/	/	○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	/	○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	リーダーが中心となり、若い職員や新入社員が委縮しないような雰囲気になっている。	/	/	/	○
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	当日勤務の職員以外は、出席している。急用等で出席出来なかった職員は、議事録を熟読し内容を把握している。	/	/	/	○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノート、ユニット会議記録、生活記録等に記入し、家族と連絡・相談した事等も、職員全体に伝わるようにしている。	/	/	/	◎
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中で、その人の思いをくみ取っている。	/	/	/	/
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくる。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服やパジャマ等をどちらがほしいか選んでもらっている。家事手伝い等何がしたいか選んでもらっている。	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように支援している。	/	/	/	/
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きなお話や、出来そうな事を勧めたり、声掛けし、雰囲気作りをしている。	/	/	/	◎
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	◎	利用者様が、何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	常に、利用者様は人生の先輩だという事をわずれずに、敬いを持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	○	高齡化や重度化に伴い、利用者のやりたいことなどの発言が少なくなってきた。時には、「焼肉を食べに行きたい、喫茶店に行きたい、家に帰りたい」などの意見が出されるが、コロナ禍の外出などの制限が設けられ、実現できないこともある。また、着る服や飲み物、調理の手伝い、レクリエーションなど、職員は利用者へ声をかけ、自己決定できる機会を設けている。さらに、昔の高校野球や好きなボクシングなどの話題を提供したり、散歩時に野菜や花を觀賞したりするなど、職員は利用者の活き活きとした表情が見られ、笑顔で楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は、必ず声掛けした後に入室するようにしている。訪室する際は必ずノックしている居室にいない時は戸は閉めている。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	会社外に出れば、社内の出来事は話していない。職員にも周知徹底している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たたみ等できる事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらったりした場合は、感謝の気持ちを伝えていく。				調理の下ごしらえや盛り付け、洗濯物干しやたたみなどを手伝ってもらったり、文字の書き順や酢の物などの味付けを教えてもらったりした場合には、職員は利用者へ感謝の言葉を伝えていく。また、車いすを他の利用者が押したり、利用者同士で励ましの声かけをしたりするなど、助け合う場面も見られる。さらに、利用者同士の関係性を把握し、配席などの配慮をしている。時には、耳の遠い利用者が反応をせずに、言い合いなどのトラブルになることも見られるため、職員は早期に間に入り、居室などの他の場所に移動して、話を聞いたりするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって生きていく事を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って、仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、職員が媒体になり、馴染めるように配慮している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が仲介し、支援している。ソファーに並んで座り談話したり、隣席どおし協力し合い家事等してもらっている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているが、昔の事を話したらない利用者様や家族もいる。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ過で外出できていないが、年賀状のやりとりや電話で話したりしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ過で外出はできていないが、天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。ホームに咲いている季節の花を見て、春夏秋冬を感じてもらっている。	○	×	○	コロナ禍において、事業所では外出できる機会が減少しているが、天気のいい日には、事業所周辺を散歩したり、庭に出て外気浴をしたり、敷地内に植えられた季節の花を観賞したりするなど、利用者が少しでも気分転換が図れるよう支援している。また、病院の受診時に、うどんを食べて帰ったり、遠回りをして、海岸線をドライブを楽しんだりすることもある。さらに、重度の利用者も、車いす等を使用して、同様の外出支援をしている。加えて、外食等ができない代わりに、おやつやサンドイッチなどを作って、事業所内でお茶を楽しむ機会を設けるなどの工夫をしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ過の前は、菊の花や季節の花を見に、地域の方の家にも訪問していたが、現在は出来ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話合ったり、日々の申し送りや伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアをしている。				職員は、勉強会で認知症の行動や心理状態などを学ぶとともに、ユニット会などを活用して、利用者の行動や認知症状などの対応を検討している。また、散歩や歩行訓練、手足の体操、拘縮のリハビリなどを取り入れ、利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。さらに、事業所では、できること・できないシートを活用して、利用者一人ひとりのできることを把握しており、利用者自身でできることはしてもらい、職員は見守りやできない部分の介助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	廊下歩行や手足の体操、口体操を行っている。拒否される方もいるが、気長に声掛けしている。出来ない方は職員が介助している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は、自力でしてもらっている。危険な時は介助している。		◎	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来る様に支援している。				洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえや盛り付けなど、職員は利用者一人ひとりの趣味や嗜好などを把握して、役割や出番を担ってもらえるよう支援している。利用者の高齢化や重度化に伴い、できる役割や出番は少なくなっているものの、座ってできるテーブル拭きや野菜ちぎりなどをしてもらったり、日めくりカレンダーをめくることを日課にしたりするなど、些細なことでも、できる役割などを担ってもらえるよう取り組んでいる。また、音好きだった話題を話したり、散歩時に野菜の花や稲の成長を鑑賞したりする場合には、利用者の活き活きとした表情も見られる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでも、個々に出来る事を、日常の会話やふれあいによって、職員が見つつけ出し、楽しみを持って生活してもらっている。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分の選んだ衣服やパジャマに着替えてもらっている。				毎朝、自分で服を選んで着替え、整容を整えることのできる利用者もいる。また、電気シェイパーを職員が渡し、器用に髭剃りをしている利用者もいる。時には、整容の乱れや汚れも見られることもあり、職員はさりげなくフォローをしている。さらに、2〜3か月に1回、訪問理容の来訪もあり、利用者の好みの髪型に散髪をしている。加えて、重度な利用者にも、朝夕に着替えてもらい、メリハリのある生活が送れるよう支援するとともに、朝は温かいタオルを渡し、顔の可能な部分を拭いてもらい、できない部分の介助をするなど、その人らしい生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	個別にヘアブラシを用意している。散髪はホームに来てもらって、好みの髪型にさせている。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	起床後には、一緒に鏡を見ながら、髪型を整えたりその人らしくられる様に支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	◎	適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	利用者様のプライドを大切にし、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにてボランティア(有償)の方に、散髪してもらっている。本人・家族もそれを望んでいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装に気を付けている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べてもらえる様に、食器や彩にも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている。				月単位で、利用者の好みのメニューを取り入れながら、献立を作成し、週2回スーパーに買い出しに出かけて、利用者野菜切りなどの調理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、下膳などを手伝ってもらいながら、各ユニットのキッチンで職員が調理をしている。また、業者からパランスの取れた湯煎する食材も届けられ、調理との使い分けを行い、利用者に食事を提供している。アレルギーのある利用者は現在いないものの、苦手な食材のある場合には、代替の食材などを用意している。利用者の状態に合わせて、刻みやミキサー食、トロミなどの食の形態にも対応している。コロナ禍以前は、近隣の喫茶店や飲食店に、外食に出かけることもできていた。また、誕生日には、ケーキを用意するとともに、利用者が希望するおかずを2品加えるなどの工夫もしている。食器類は、入居時に使い慣れた物を持ち込んでもらうほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、職員は利用者と会話をしながら、見守りやサポートを行い、コロナ禍において、別々に食事を摂っている。また、全ての利用者がリビングに出て、食事を摂ることができおり、重度の利用者も、可能な範囲で口腔体操を行い、調理の音や匂いを感じることができている。時には、インスタントのカレーやラーメンを提供したり、「食べたくない」という利用者に対して、弁当を買いに出かけ、提供するなどの工夫もしている。さらに、献立作成を含めて、職員間で調理方法やパランスなどを話し合うこともできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等はしてもらっている。中には出来ない人もいる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	声掛けにて、盛り付け等は一部の利用者様にしてもらっており、残存能力維持・達成感に繋げている。中には出来なくなっている人もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	牛乳やコーヒーが苦手なご利用者様には、ジュースや別の飲み物を提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬の物を取り入れ、季節感を味わっていたり、利用者様も喜ばれている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の状態や体調により、刻みやミキサー食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器にしたり、工夫して盛り付けをしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持ち込みで、使い慣れた物を使用している。床に落ちて危険な方は、プラスチック製の食器を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と会話をしながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等は、さりげなくサポートしている。コロナウイルス感染予防の為、一緒に食べていない。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて、皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚が刺激され、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量、しっかりと確保できている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりに合った形態で援助し、時には介助にて摂取してもらっている。摂取量に合わせ、高カロリー食品や飲料を摂取してもらっている。利用者様もいる。				
		l	職員で献立のパランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合い、その都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気を付けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者様、一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。	/	/	/	半年ぐらい前までは、定期的に歯科医を受診している利用者がいたが、現在は利用者の訴えや虫歯などが見られた場合のみ、歯科医の受診に繋げている。また、毎食後に、職員は声をかけて、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。さらに、自分で歯磨きをしている利用者を含めて、全ての利用者の口腔内の状況を確認することができている。加えて、義歯は夜間に預かり、洗浄するほか、消毒液に浸けている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も、口腔ケア時に確認している。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に、義歯の洗浄の仕方についてや口腔ケアの仕方について教えていただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来る方は自分でしてもらっている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	自力で出来る方は自分でしている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄が出来る様に支援している。	/	/	/	事業所には、おむつをしている利用者があるほか、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。中には、声かけをすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、排泄チェック表で、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、定期的に職員は声かけをするほか、利用者のリズムに合わせて、声かけやトイレ誘導をしている。さらに、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用時には、判断可能な利用者には意見を聞いて選んでもらうとともに、職員間で適切な用品の使用を話し合い、家族に相談確認の上で、使用をしている。加えて、ヨーグルトやバナナ、水分補給、体操などを取り入れるほか、必要に応じて、軟便剤を使用するなど、利用者自然な排便が行えるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘による様々な弊害を理解し、廊下歩行や散歩・体操を促している。出ない場合は緩下剤を服用している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握して、変化があれば、ユニット会で議題に上げて、検討・見直しを行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、職員間で情報を共有し、その都度、看護師も交えて検討し、対策を実施している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は、声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様は、自分で選択してもらっている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者様の状態に合った、紙オムツ・紙パンツ・パッドを使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	朝食時のヨーグルトバナナ・スタミン等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行、手足の体操の運動にも取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	高齢で体力的に毎日入れない方は、2〜3日に1回の方もいる。湯舟を跨げない方や転倒の危険性のある方はシャワー浴している。	◎	/	○	利用者は、2〜3日に1回入浴することができる。以前は、頻回入浴を希望する利用者もおり、柔軟に対応することができていたが、利用者の高齢化や重度化に伴い、現在はそこまで希望する利用者はいなくなっている。また、湯船を跨げない場合や、転倒の危険性のある利用者には、シャワー浴などの対応をしている。中には、入浴好きで、一度入るとなかなか出ようとしにくい利用者もいる。さらに、利用者の体調面を考慮しながら、職員は湯の温度や湯船に浸かる長さ、入浴剤の有無など、可能な範囲で柔軟に対応している。季節に応じて、菘蒲湯やみかん湯にするなどの支援もしている。加えて、入浴を拒む利用者には、希望する職員が入浴支援をしたり、時間帯や職員を変えて、声かけをしたりするなどの工夫もしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	入浴されている時、昔話をしたり、家族の事を話したり、談笑されながら入浴している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る限りの入浴動作の自立を促している。湯舟を跨げない方や転倒の危険性がある方はシャワー浴している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫する事で入浴出来ている。必要に応じて、男女職員を交代し、羞恥心に配慮している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に気を配っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	テレビを観てから入室される方もいるし、個々の睡眠パターンを把握している。				事業所には、眠剤などの服薬をしている利用者もいるが、医師に報告や相談を行い、服薬の影響が残り、ふらつきなどの転倒防止に努めており、必要以上に飲みすぎないように薬の量を調整している。また、日中の工作やぬり絵のレクリエーションや体操などの活動量を増やしたり、外気浴をしたり、昼寝時間を調整するなど、職員は利用者が夜間に良眠できるよう支援している。さらに、畳の部屋があるユニットもあり、必要に応じて、利用者に昼寝や仮眠を促している。中には、夜間に眠れない利用者もあり、リビングで利用者とホットミルクなどを飲みながら会話をし、眠りそうなタイミングで、居室へ誘導するなどの対応もしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、日中の居室での仮眠時間を減らしたり等して、夜間の睡眠が取れる様に支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	外気浴に行ったり、工作、塗り絵、手足の体操をしたり、できるだけ薬剤に頼らない支援を心がけている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室や和室にて臥床し休んでもらっている。一人で行きたい方は廊下のソファに座られている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。持っていない方は電話を取りつき談話されている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのまませず音信がとれるように工夫している。	◎	本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、音信がとれる様に支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、良く話されている。家族様からもよく、電話や手紙や季節の絵を描かれたハガキが届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ過で外出していない。買い物も行っていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	その都度、本人様・家族様と相談し、意向に添った支援に努めている。病院の受診介助等、柔軟に対応している。	◎		○	コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、外食などに対応できなくなっている。事業所では、系列病院の医師にかけつけ医の変更をお願いしているが、利用者や家族の要望で、継続している利用者もいる。また、病院受診を管理者等が同行支援することもある。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺に、春夏秋冬の色とりどりの草花いつでも見に来ていただける様にしているが、コロナ過で現在は出入りはしていない。	◎	◎	◎	事業所では、玄関先や敷地内に草花を植え、家族や近隣住民が来訪しやすい雰囲気づくりをしている。コロナ禍以前は、藤やバラなどの季節の花を見に来る近隣住民もいた。また、玄関はガラス張り、中の様子が見えやすくなっており、事務所から管理者等が来訪者に声をかけやすくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じ、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	リビングの壁には、季節ごとの切り絵や飾りを飾っている。花を生けたり、廊下には、お誕生日会や季節の行事の写真を張っている。居室には送付されてきた、家族やお孫さんの写真を飾っている。	◎	◎	◎	デイサービスが併設されている建物、畳の部屋があるなど、それぞれに違う構造となっている。また、事業所には環境委員があり、月々の目標を定めて、日々細やかな清掃や換気が行われ、快適な空間づくりをしている。また、廊下にはソファが置かれ、一人で読書を楽しむ利用者もいる。さらに、季節の飾り付けや生花がけられているほか、窓からは敷地内の草木や周囲の田園風景が眺められ、利用者や来訪者は季節を感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	環境委員を中心に、細目に掃除をしている。また、カーペット交換やカーテン交換も実施している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等、出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜や果物にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や、利用者様の様子を見ながら、その都度工夫し対応している。廊下にソファを置き、一人で静かに過ごせる場所も作っている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた、家具や小物を持ち込んでいる方もいる。家族からの写真や絵はがきを飾ったり、自分好みにされている。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、ハンガー掛け、写真ボードが備え付けられている。利用者は、衣装ケースやたんすのほか、家族や孫の写真を飾るなど、暮らしやすいスペースを作っている。中には、すっきりと印象を受ける居室もある。また、早出の職員が毎朝居室の清掃を行い、清潔保持に努めている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには、日めくりカレンダーを作り、利用者様がめくれる様になっている。自室には、表札を作っている。トイレや浴室も分かりやすい様に表示している。			○	建物はバリアフリー構造で、車いすの利用者も移動しやすい動線が確保されている。また、居室に表札を付けているほか、トイレや浴室は分かりやすい表示が行われ、利用者が認識しやすいようにしている。中には、夜間に居室を間違える利用者もおり、頻回に続く場合には、医師に相談することもある。さらに、事業所では新聞を2紙取っており、順番に読む利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	テーブル上やカウンターに、季節の花を生けたり、壁には、季節の張り絵等を毎月飾っている。読書が好きの方は、園芸や好みの本、新聞をいつでも読める様にしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。	◎	◎	◎	職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関を施錠されておらず、夜間のみ防犯のため、21時から6時30分まで施錠をしている。また、日中には非常入り口以外の施錠は行われていない。さらに、玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。加えて、利用者が外に出ようとする場合には、制止することなく、職員が付き添い、散歩をするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今、現在鍵はかけていない。施錠を望む家族もいない。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでもすぐ確認が出来る様になっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は、生活記録に残している。職員にも引き継いでいる。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係築きしている。日中は兼務の看護師に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族が希望する、かかりつけ医や医療機関で受診ができる様に支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月1回、連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続希望される場合、ご家族様が受診介助出来ない場合は、職員がお連れしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は、結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は、受診前後に、ご家族様に連絡・報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や、介護状態について、看護要約サマリーを作成し、病院に情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携を密にして、情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月3回当ホームに、西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時に主治医にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	個人カルテを作成し、服用している薬の説明分を読み理解している。また、生活記録に残し、家族・主治医に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時、職員2人で声を出しダブルチェックしている。服用後も飲み忘れがないか、薬箱のチェックもしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や、日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと、連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時点で最善の方針を共有している。				事業所には、「入居者の重度化および終末期ケアに対する指針」などが整備され、入居時に、家族等に事業所として対応できることや対応できないことなどを説明するとともに、緊急時対応などの同意を得ている。24時間体制での医療連携が図られ、利用者や家族の希望に応じて、事業所では看取り支援に対応可能となっているが、近年は看取り支援は実施されていない状況となっている。また、重度化や状態が悪化した場合には、家族や医師、看護師を交えて話し合い、最善の方針を共有している。中には、重度化に伴い、事業所で生活することが難しくなった場合には、他の施設等へ転院先を支援するほか、病院への救急搬送などの対応をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時点で最善の方針を共有している。		○	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者・職員交えて、等ホームでどこまで支援が出来るか話合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来る事、出来ない事については、その時・その場で説明し、理解していただいている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者様がより良く暮らせる為に、連携病院の主治医等と連携して、チームで支援していく体制にしている。ホームでの生活が難しい様であれば、住み替えの提案も相談の上している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の意向は聞いている。利用料の支払いの期限等も出来る限り考慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で、随時学んでいる。コロナ過で研修会や講習会には参加できていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	勉強会で繰り返し手順を確認している。発生した時に、すみやかに処理出来るように、道具一式を揃えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	市報やインターネットを通じて、最新情報を入手している。グループ内の市民病院の患者発生情報等も、情報収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時、外出時等、外に出た時は必ず手洗い・消毒体温測定・うがいをしている。来客者にもアルコール消毒・体温測定してもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ過で面会は出来ていないが、月1回に日常生活報告書にて報告している。また電話時に利用者様と変わり話してもらっている。	/	/	/	コロナ禍以前は、花見やクリスマス会などに家族の参加を呼びかけて、交流を図ることができていたが、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は自粛している。また、事業所には家族会が設置されており、年2回運営推進会議の終了後に開催し、家族同士の交流を図ることもできていた。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、事業所では、家族とのガラス越しの面会にも対応しているほか、リモートの面会にも対応をしている。また、年4回あたご通信を発行するほか、毎月利用者の状況を記載した日常生活報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。さらに、排泄用品などを持ってきた来訪時のほか、電話連絡時を活用して、職員は利用者の様子を伝えた上で、家族から意見や要望を聞くよう努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナ過で、外出・外食・面会等が出来ていない。リモート面会は実施している。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という情報誌を、年4回発行しており、行事に参加した様子を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き、日常の様子・体調等について報告している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	コロナ過で面会は出来ていないが、電話で家族様と話しをし、認知症への理解を得られる様になっている。出来ていた事が、出来なくなったり難しくなっている事も逐一報告している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	コロナ過で運営推進会議もできていないが、資料送付をして理解・協力を得られる様になっている。	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者様、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	リモート面会時や、電話での会話で明るく感じの良い話し方を心がけている。ご家族様の趣味の事をお聞きしたり、話やすい雰囲気を作っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納付	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時に、契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて、具体的に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、家族様と相談し、納得していただいている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	コロナ禍以前は、地域の祭りや運動会に参加したり、踊りや楽器演奏のボランティアが来訪したり、近隣住民が庭のバラや藤棚を見に来るなど、地域住民と交流を図ることができていた。また、コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、地域住民と交流できる機会は減少しているが、事業所周辺の散歩時に挨拶や会話を交わすほか、ボランティアの方が、飾り付けや小物を送付してくれるなどの交流を継続することもできている。また、事業所には、パンの移動販売の来訪があり、利用者は楽しみにしている。さらに、地域の老人クラブや婦人会、民生委員等が広報誌などで、情報を知らせてくれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあい、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が、地域にも浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてきている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の番傘や藤見学を再開したい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の番傘や藤見学を再開したい。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ過で、ボランティアの訪問も中止しているが、コロナが収まれば、ボランティアの歌謡ショーや日本舞踊、楽器演奏のショーを再開する予定にしている。訪問はないが、飾りや小物は送って来ている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ過で、訪問等は中止にしているが、収束すれば消防署来訪の心肺蘇生法講習や火災・地震対策予防講習等を再開する予定である。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブ、民生委員、介護相談員、市担当者などの参加を得て開催をしている。コロナ禍において、会議は書面開催となっており、参加メンバーのほか、一部の家族に会議資料を送付して、意見をもらうこともできている。今後は、全ての家族に会議資料を送付したり、コロナ禍の収束後には、全ての家族に会議開催を周知したりすることを期待したい。また、サービスの評価結果は、参加メンバーや全ての家族に資料を送付して、報告することができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	外部評価後は、資料を運営推進会議にて開示している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷の、運営理念を作成し、職員に周知し理念に基づいたケアに取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	コロナ過で、訪問を中止している。また、運営推進会議も行っていないが、収束すれば、面会時や会議時に以前の様に伝える予定。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	法人が大きいため、代表者の来訪はないものの、定期的に法人本部の職員の来訪があり、管理者等から報告を受けている。また、年間の研修計画を立てて、月1回程度勉強会を開催することができていたが、コロナ禍において、開催頻度が減っている。新入職員が入社した際には、利用者との会話やふれあいから始まり、徐々に調理や入浴介助、夜勤の順で、段階を踏まえた指導や育成が行われている。さらに、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得の支援もある。コロナ禍以前は、親睦会や食事会、スポーツ大会などが行われていたが、現在は開催が自粛されている。加えて、管理者は職員と話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員同士の信頼関係づくりにも気を配っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	出来る限り、希望に添える勤務にしている。夜勤や遅出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ過で、訪問したりされたりが、出来ない状態になっているが、社内での管理職会・施設長会・主任副主任会等で、情報交換している。収束すれば、積極的に講習・研修会等に参加させたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	コロナ過で、親睦会やスポーツ大会等は出来ていないが、面接を行い希望や要望を聞いている。	/	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃されることのないよう注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	コロナ過で、外部の講習や研修会には参加できないが、ユニット会で身体拘束や虐待防止について、勉強している。また、各自が文献やインターネットで検索し勉強し理解している。	/	/	◎	定期的に、身体拘束や虐待の防止などの勉強会を実施するとともに、申し送り等を活用して、日々のケアの振り返りなどが行われている。時には、馴れ馴れしい言葉づかいやきつく感じる言葉も聞かれ、管理者やリーダーは当該職員に指導や注意喚起をしている。法人として、定期的にパワハラやセクハラなどの調査が行われ、働きやすい職場環境づくりに繋げている。また、管理者は職員の言動や表情を観察を行い、必要に応じて、職員に声をかけて相談に応じるなど、疲労やストレスなどの配慮をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りしている。日々の体調やケアについて話し合いふりかえっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラについての調査をしている。日常でも、社員の態度や表情も観察している。事務所で個別に談話する事もある。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在では、その様な要望はないが、今後あっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら、理解を図っていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	ユニット会の勉強会で理解を深めている。家族の状況を踏まえ、情報提供や相談にのっている。ご家族様が遠方の方等は、代理で市役所へ書類手続きに行った事もある。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	家族様の兄弟間で、司法書士が間に入っている方もいるので、いつでも連絡出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員に通知しているが、新しい職員はまだ完全に把握できていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	コロナ過で、消防訓練は年2回行っているが、心肺蘇生法、AED取り扱い講習は、感染予防の為、出来ていない。文献やインターネット等で学習している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その都度、職員で話し合い、対応方法や注意する点を申し送り、事故防止に繋げている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者と24時間常時連絡が取れる体制に、連絡があれば、迅速に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの、問い合わせや要望があれば、管理者に報告相談し、対応している。転倒し入院等になれば市の長寿介護課に、文書で報告している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情は4年程ないが、問い合わせや要望は、管理者が職員と話し合い答えている。疑問や質問にたいしても、細かく答えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、事務所で1対1でゆっくりとお話を聞いている。	◎		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。コロナ禍以前は、市行政から介護相談員を派遣してもらい、利用者の話を聞いてもらうこともできていたが、現在は中止されている。また、管理者は、家族に「意見や要望を出して欲しい」と伝えており、来訪時や電話連絡時に、職員は意見を聞くよう努めているが、意見は少なくなっている。さらに、年2回管理者は職員との個別面談を実施するほか、日頃から職員の見解に耳を傾けている。職員から出された意見を反映して、メーカー等と相談を行い、リクライニングの車いすもリフト車に乗せることが可能となるなど、サービスの質の向上にも繋がっている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、電話時にゆっくりとお話を聞いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝、各ユニットの利用者様に、挨拶回りしており、その際に、職員の意見や要望も聞いている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に2回、面接を行っている。その他にも、普段から職員の話や意見を聞く、機会を持っており、利用者様の為にどうすべきか、話合っている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価の対象でない年も、管理者・職員で自己評価に取り組む、書類として残している。				自己評価は、職員全員で取り組み、管理者等が取りまとめて作成をしている。また、ユニット会等を活用して、職員にサービスの評価結果を説明し、目標達成に向けて取り組んでいるものの、コロナ禍において、実践できていないものもある。さらに、評価結果は、運営推進会議の参加メンバーや全ての家族に報告をしている。コロナ禍の収束後には、目標達成計画の取組み状況のモニターへの取組みが再開されることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、管理者・職員で話し合い、目標達成計画を作成し、ユニット会で職員に周知し、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。	○	◎	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	ジェイコムグループで、様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。	/	/	/	法人・事業所として、様々な災害対策マニュアルを整備し、職員に周知している。年2回、昼夜の火災などを想定した避難訓練を実施している。また、法人内の施設や事業所と、災害発生時の協力支援体制を構築することができている。さらに、災害に備えて、水や食料などの備蓄品を用意している。コロナ禍において、近隣住民との合同の避難訓練のほか、地域の防災訓練への参加は自粛しており、前回の目標達成計画に掲げていたが、実現には至っていない。コロナ禍の収束後には、地域住民や家族に避難訓練の参加を呼びかけて、合同訓練の実施を再開したり、集合形式の運営推進会議等を活用して、災害などをテーマに話し合ったりするなど、より地域との協力支援体制が強化されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間の時間帯を想定し、訓練しているが、2人体制・1人体制での訓練は出来ていない。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備・消火器の点検は、専門業者に依頼、規定どおり点検している。パンや水等も消費期限までに、点検交換している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ禍で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	○	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ禍で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げていく認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ禍で、会合はできないが、広報誌「あたご」を発行している。介護相談員や老人クラブ会長、民生委員に広報誌を郵送している。	/	/	/	事業所には、地域の高齢者や家族から相談が寄せられ、管理者等は適切に対応をしている。また、地域の関係者に、あたご通信を送付して、事業所の広報啓発をしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験を受け入れることもできていた。さらに、外国人の技能実習生の受け入れにも協力するとともに、働きやすいように居住スペースを確保している。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センター等が主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	コロナ禍で、見学は出来ないが、事務所でパソコンで施設紹介している。また入居相談も受けている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍で、施設内訪問は中止している。また、訪問も感染予防の為、出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	コロナ禍で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開予定	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	コロナ禍で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開また、地域のイベントにも参加したい。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 丹原の郷 北町
記入者(管理者) 氏名	濱田 寿男
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 4 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供します。</p> <p>2. 一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供出来るように努めます。</p> <p>3. 主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るように援助します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだ事・その結果】</p> <p>〇コロナ過で、会合や会議・集会在中止になり、地域防災訓練にも参加できていない。収束すれば、家族や地域住民に來訪していただき、消火訓練等に参加してもらいたいと思っている。また、地域で開催される防災訓練等にも参加したいと思っている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市の郊外にある開設から20年目を迎える事業所は、近隣住民に浸透してきている。事業所周辺は田園が多く、庭にはバラや藤などの季節の花が植えられ、利用者や来訪者は四季の移ろいを感じる事ができる。コロナ禍以前は、多くの外出行事を取り入れ、様々な場所に出かけることができていたが、コロナ禍において、外出制限が設けられ、外出する機会が減っているものの、事業所周辺の環境を活かして、日頃から散歩したり、庭に出て外気浴をしたり、病院の受診時に遠回りをして、海岸線をドライブを楽しんだりするなど、利用者が少しでも気分転換を図れるよう支援している。また、感染状況を見計らいながら、家族にはガラス越しの面会に対応するほか、リモート面会にも対応している。さらに、年4回あたご通信を発行するとともに、毎月利用者の状況を記載した日常生活報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。加えて、事業所には介護ソフトが導入され、年配の職員は、タブレットの活用には不安や負担を感じる場合があるものの、使いこなしながら、職員の負担軽減に繋がっている。</p>
--	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の会話の中から希望を聞き、職員で話合っている。	◎	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員間で本人の視点に立て、意見を出し合う様になっている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚の電話時に本人の好きな事や、希望・意向を聞き出している。	/	/	/	入居前に、管理者等は自宅や施設を訪問して、利用者や家族から、思いや暮らし方の希望、意向などを聞いている。また、日々の何気ない会話の中から、担当職員は利用者から思いなどを聞くよう努めるとともに、家族から電話連絡時等を活用して、好みなどの情報を聞くようにしている。さらに、把握した内容は独自のアセスメントシートに記載し、職員間の共有に努めている。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常会話から、食べたい物や、やりたい事等日常生活記録に記載している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日常から、思い込みが起らないように、職員間で良く話合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。	/	/	○	入居前に、管理者等は自宅や施設等を訪問して、独自のアセスメントシートやできること・できないシートを活用して、利用者や家族から馴染みの暮らし方や生活歴などの聞き取りをしている。コロナ禍において、病院等に入所している場合は、面会することができないことがあり、管理者等が窓越しに利用者の様子を観察するほか、病院等の関係者から入院した経緯などを聞いたり、サマリーなどの情報の提供を受けたりすることもある。また、日々の生活の中で、担当職員は利用者から新たな情報を聞き取るよう努めている。中には、発言することが難しい利用者もあり、職員は行動や様子を観察したり、家族等から好みや趣味などの新たな情報を聞いたりするなど、少しでも多くの情報収集に努めている。加えて、把握した情報は独自のアセスメントシートに記載するとともに、介護計画の更新時には、シートなどの情報の更新に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事・できない事シートを活用し、状態が変わればその都度話合っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の生活の中での様子を記録し、職員間で引き継ぎ情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話合っている。必要に応じて、その日の出勤者でも話合っている。	/	/	○	事前に、担当職員が利用者や家族から意見を聞くほか、往診時に医師や看護師から指示やアドバイスをもらい、事前に把握した情報をもとに、ケアカンファレンスを活用して、職員間で課題を把握するほか、より良く暮らすためのサービス提供などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	ユニット会で職員間で検討している。電話時には主介護者様にも適宜相談している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話合って介護計画を作成している。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	3か月に1回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で、介護計画を作成している。	◎	/	◎	コロナ禍において、面会制限が設けられているため、家族や関係者が参加したケアカンファレンスの開催はできておらず、事前に担当職員等が利用者や家族から意見を聞くとともに、関係者から指示やアドバイスをもらっている。また、把握した情報やモニタリング等の情報をもとに、ユニット会を活用してケアカンファレンスを開催し、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者や家族の意向が反映された計画となるよう努めている。
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し身体状況、食量、水分量、排泄等の記録をして状況に応じている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	コロナ過で会議は出来ていないが、電話で運営推進会議メンバーの方と意見交換をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを3か月に1度見直している。状態が変わればその都度見直している。	/	/	/	○ 担当職員等は、ケアカンファレンスに参加して、介護計画に内容の把握に努めるとともに、参加できなかった職員には、作成した計画のコピーを手渡し、計画作成担当者が変更点などの説明をしている。また、個別のファイルを事務所に置くとともに、タブレットを活用して、いつでも計画を確認できるようになっている。また、事業所には介護ソフトが導入されており、タブレットを活用して、井や番号を記載して、生活記録等に計画に沿ったサービス内容を記録することができている。さらに、普段と変わった言動などを細かく記載することもできている。年配の職員は、タブレットの活用不安や負担を感じる場合があるものの、使いこなしながら、職員の負担軽減に繋がっている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記載し、介護計画にそって日々の支援を行っている。実行できた事項を確認している。	/	/	/	◎
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に1度見直しを行っている。状態変化がなければ6か月後に作成している。	/	/	/	◎
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会や日々の申し送りで、一人ひとり利用者の変化等について話合っている。	/	/	/	△
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をし適宜見直している。	/	/	/	○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	/	○
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	リーダーが中心となり、若い職員や新入社員が委縮しないような雰囲気になっている。	/	/	/	○
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	当日勤務の職員以外は、出席している。急用等で出席出来なかった職員は、議事録を熟読し内容を把握している。	/	/	/	○
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノート、ユニット会議記録、生活記録等に記入し、家族と連絡・相談した事等も、職員全体に伝わるようにしている。	/	/	/	◎
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中で、その人の思いをくみ取っている。	/	/	/	/
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服やパジャマ等をどちらがほしいか選んでもらっている。家事手伝い等何がしたいか選んでもらっている。	/	/	/	○
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように支援している。	/	/	/	/
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きなお話や、出来そうな事を勧めたり、声掛けし、雰囲気作りをしている。	/	/	/	◎
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	◎	利用者様が、何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	常に、利用者様は人生の先輩だということをわすれずに、敬いを持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	○	高齡化や重度化に伴い、利用者のやりたいことなどの発言が少なくなってきた。時には、「焼肉を食べに行きたい、喫茶店に行きたい、家に帰りたい」などの意見が出されるが、コロナ禍の外出などの制限が設けられ、実現できないこともある。また、着る服や飲み物、調理の手伝い、レクリエーションなど、職員は利用者に声をかけ、自己決定できる機会を設けている。さらに、昔の高校野球や好きなボクシングなどの話題を提供したり、散歩時に野菜や花を觀賞したりするなど、職員は利用者の活き活きとした表情が見られ、笑顔で楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は、必ず声掛けした後に入室するようにしている。訪室する際は必ずノックしている居室にいない時は戸は閉めている。	/	/	◎	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	会社外に出れば、社内の出来事は話していない。職員にも周知徹底している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たたみ等できる事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらったりした場合は、感謝の気持ちを伝えていく。	/	/	/	調理の下ごしらえや盛り付け、洗濯物干しやたたみなどを手伝ってもらったり、文字の書き順や酢の物などの味付けを教えてもらったりした場合には、職員は利用者へ感謝の言葉を伝えていく。また、車いすを他の利用者が押したり、利用者同士で励ましの声かけをしたりするなど、助け合う場面も見られる。さらに、利用者同士の関係性を把握し、配席などの配慮をしている。時には、耳の遠い利用者が反応をせずに、言い合いなどのトラブルになることも見られるため、職員は早期に間に入り、居室などの他の場所に移動して、話しを聞いたりするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって生きていく事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って、仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、職員が媒体になり、馴染めるように配慮している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が仲介し、支援している。ソファーに並んで座り談話したり、隣席どおし協力し合い家事等してもらっている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているが、昔の事を話したらない利用者様や家族もいる。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ過で外出できていないが、年賀状のやりとりや電話で話したりしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ過で外出はできていないが、天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。ホームに咲いている季節の花を見て、春夏秋冬を感じてもらっている。	○	×	○	コロナ禍において、事業所では外出できる機会が減少しているが、天気のいい日には、事業所周辺を散歩したり、庭に出て外気浴をしたり、敷地内に植えられた季節の花を觀賞したりするなど、利用者が少しでも気分転換が図れるよう支援している。また、病院の受診時に、うどんを食べて帰ったり、遠回りをして、海岸線をドライブを楽しんだりすることもある。さらに、重度の利用者も、車いす等を使用して、同様の外出支援をしている。加えて、外食等ができない代わりに、おやつやサンドイッチなどを作って、事業所内でお茶を楽しむ機会を設けるなどの工夫をしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ過の前は、菊の花や季節の花を見に、地域の方の家にも訪問していたが、現在は出来ない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話合ったり、日々の申し送りや伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアをしている。	/	/	/	職員は、勉強会で認知症の行動や心理状態などを学ぶとともに、ユニット会などを活用して、利用者の行動や認知症状などの対応を検討している。また、散歩や歩行訓練、手足の体操、拘縮のリハビリなどを取り入れ、利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。さらに、事業所では、できること・できないシートを活用して、利用者一人ひとりのできることを把握しており、利用者自身でできることはしてもらい、職員は見守りやできない部分の介助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	廊下歩行や手足の体操、口体操を行っている。拒否される方もいるが、気長に声掛けしている。出来ない方は職員が介助している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は、自力でしてもらっている。危険な時は介助している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来る様に支援している。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえや盛り付けなど、職員は利用者一人ひとりの趣味や嗜好などを把握して、役割や出番を担ってもらえるよう支援している。利用者の高齢化や重度化に伴い、できる役割や出番は少なくなっているものの、座ってできるテーブル拭きや野菜ちぎりなどをしてもらったり、日めくりカレンダーをめくることを日課にしたりするなど、些細なことでも、できる役割などを担ってもらえるよう取り組んでいる。また、音好きだった話題を話したり、散歩時に野菜の花や稲の成長を鑑賞したりする場合には、利用者の活き活きとした表情も見られる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでも、個々に出来る事を、日常の会話やふれあいによって、職員が見つつけ出し、楽しみを持って生活してもらっている。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分の選んだ衣服やパジャマに着替えてもらっている。				毎朝、自分で服を選んで着替え、整容を整えることのできる利用者もいる。また、電気シェイパーを職員が渡し、器用に髭剃りをしている利用者もいる。時には、整容の乱れや汚れも見られることもあり、職員はさりげなくフォローをしている。さらに、2〜3か月に1回、訪問理容の来訪もあり、利用者の好みの髪型に散髪をしている。加えて、重度な利用者にも、朝夕に着替えてもらい、メリハリのある生活が送れるよう支援するとともに、朝は温かいタオルを渡し、顔の可能な部分を拭いてもらい、できない部分の介助をするなど、その人らしい生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	個別にヘアブラシを用意している。散髪はホームに来てもらって、好みの髪型にさせている。				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	起床後には、一緒に鏡を見ながら、髪型を整えたりその人らしくられる様に支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	◎	適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	利用者様のプライドを大切にし、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにてボランティア(有償)の方に、散髪してもらっている。本人・家族もそれを望んでいる。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装に気を付けている。			◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べてもらえる様に、食器や彩にも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている。				月単位で、利用者の好みのメニューを取り入れながら、献立を作成し、週2回スーパーに買い出しに出かけて、利用者野菜切りなどの調理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、下膳などを手伝ってもらいながら、各ユニットのキッチンで職員が調理をしている。また、業者からパランスの取れた湯煎する食材も届けられ、調理との使い分けを行い、利用者に食事を提供している。アレルギーのある利用者は現在いないものの、苦手な食材のある場合には、代替の食材などを用意している。利用者の状態に合わせて、刻みやミキサー食、トロミなどの食の形態にも対応している。コロナ禍以前は、近隣の喫茶店や飲食店に、外食に出かけることもできていた。また、誕生日には、ケーキを用意するとともに、利用者が希望するおかずを2品加えるなどの工夫もしている。食器類は、入居時に使い慣れた物を持ち込んでもらうほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、職員は利用者と会話をしながら、見守りやサポートを行い、コロナ禍において、別々に食事を摂っている。また、全ての利用者がリビングに出て、食事を摂ることができおり、重度の利用者も、可能な範囲で口腔体操を行い、調理の音や匂いを感じることができている。時には、インスタントのカレーやラーメンを提供したり、「食べたくない」という利用者に対して、弁当を買いに出かけ、提供するなどの工夫もしている。さらに、献立作成を含めて、職員間で調理方法やパランスなどを話し合うこともできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等はしてもらっている。中には出来ない人もいる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	声掛けにて、盛り付け等は一部の利用者様にしてもらっており、残存能力維持・達成感に繋げている。中には出来なくなっている人もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	牛乳やコーヒーが苦手なご利用者様には、ジュースや別の飲み物を提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのものを取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬の物を取り入れ、季節感を味わっていたり、利用者様も喜ばれている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしい盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の状態や体調により、刻みやミキサー食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器にしたり、工夫して盛り付けをしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持ち込みで、使い慣れた物を使用している。床に落ちて危険な方は、プラスチック製の食器を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と会話をしながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等は、さりげなくサポートしている。コロナウイルス感染予防の為、一緒に食べていない。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて、皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚が刺激され、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎		◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量、しっかりと確保できている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりに合った形態で援助し、時には介助にて摂取してもらっている。摂取量に合わせ、高カロリー食品や飲料を摂取してもらっている。利用者様もいる。				
		l	職員で献立のパランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合い、その都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気を付けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者様、一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。	/	/	/	半年ぐらい前までは、定期的に歯科医を受診している利用者がいたが、現在は利用者の訴えや虫歯などが見られた場合のみ、歯科医の受診に繋げている。また、毎食後に、職員は声をかけて、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。さらに、自分で歯磨きをしている利用者を含めて、全ての利用者の口腔内の状況を確認することができている。加えて、義歯は夜間に預かり、洗浄するほか、消毒液に浸けている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も、口腔ケア時に確認している。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に、義歯の洗浄の仕方についてや口腔ケアの仕方について教えていただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来る方は自分でしてもらっている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	自力で出来る方は自分でしている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄が出来る様に支援している。	/	/	/	事業所には、おむつをしている利用者があるほか、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。中には、声かけをすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、排泄チェック表で、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、定期的に職員は声かけをするほか、利用者のリズムに合わせて、声かけやトイレ誘導をしている。さらに、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用時には、判断可能な利用者には意見を聞いて選んでもらうとともに、職員間で適切な用品の使用を話し合い、家族に相談確認の上で、使用している。加えて、ヨーグルトやバナナ、水分補給、体操などを取り入れるほか、必要に応じて、軟便剤を使用するなど、利用者による自然な排便が行えるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘による様々な弊害を理解し、廊下歩行や散歩・体操を促している。出ない場合は緩下剤を服用している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握して、変化があれば、ユニット会で議題に上げて、検討・見直しを常に行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、職員間で情報を共有し、その都度、看護師も交えて検討し、対策を実施している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は、声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様は、自分で選択してもらっている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者様の状態に合った、紙オムツ・紙パンツ・パッドを使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	朝食時のヨーグルトバナナ・スタミン等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行、手足の体操の運動にも取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の前で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	高齢で体力的に毎日入れない方は、2〜3日に1回の方もいる。湯舟を跨げない方や転倒の危険性のある方はシャワー浴している。	◎	/	○	利用者は、2〜3日に1回入浴することができる。以前は、頻回入浴を希望する利用者もおり、柔軟に対応することができていたが、利用者の高齢化や重度化に伴い、現在はそこまで希望する利用者はいなくなっている。また、湯船を跨げない場合や、転倒の危険性のある利用者には、シャワー浴などの対応をしている。中には、入浴好きで、一度入るとなかなか出ようとしにくい利用者もいる。さらに、利用者の体調面を考慮しながら、職員は湯の温度や湯船に浸かる長さ、入浴剤の有無など、可能な範囲で柔軟に対応している。季節に応じて、菘蒲湯やみかん湯にするなどの支援もしている。加えて、入浴を拒む利用者には、希望する職員が入浴支援をしたり、時間帯や職員を変えて、声かけをしたりするなどの工夫もしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	入浴されている時、昔話をしたり、家族の事を話したり、談笑されながら入浴している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る限りの入浴動作の自立を促している。湯舟を跨げない方や転倒の危険性がある方はシャワー浴している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫する事で入浴出来ている。必要に応じて、男女職員を交代し、羞恥心に配慮している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に気を配っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	テレビを観てから入室される方もいるし、個々の睡眠パターンを把握している。				事業所には、眠剤などの服薬をしている利用者もいるが、医師に報告や相談を行い、服薬の影響が残り、ふらつきなどの転倒防止に努めており、必要以上に飲みすぎないように薬の量を調整している。また、日中の工作やぬり絵のレクリエーションや体操などの活動量を増やしたり、外気浴をしたり、昼寝時間を調整するなど、職員は利用者が夜間に良眠できるよう支援している。さらに、畳の部屋があるユニットもあり、必要に応じて、利用者に昼寝や仮眠を促している。中には、夜間に眠れない利用者もあり、リビングで利用者とホットミルクなどを飲みながら会話をし、眠りそうなタイミングで、居室へ誘導するなどの対応もしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、日中の居室での仮眠時間を減らしたり等して、夜間の睡眠が取れる様に支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	外気浴に行ったり、工作、塗り絵、手足の体操をしたり、できるだけ薬剤に頼らない支援を心がけている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室や和室にて臥床し休んでもらっている。一人でいたい方は廊下のソファに座らされている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。持っていない方は電話を取りつき談話されている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、音信がとれる様に支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、良く話されている。家族様からもよく、電話や手紙や季節の絵を描かれたハガキが届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ過で外出していない。買い物も行っていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	その都度、本人様・家族様と相談し、意向に添った支援に努めている。病院の受診介助等、柔軟に対応している。	◎		○	コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、外食などに対応できなくなっている。事業所では、系列病院の医師にかけつけ医の変更をお願いしているが、利用者や家族の要望で、継続している利用者もいる。また、病院受診を管理者等が同行支援することもある。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺に、春夏秋冬の色とりどりの草花いつでも見に来ていただける様にしているが、コロナ過で現在は出入りはしていない。	◎	◎	◎	事業所では、玄関先や敷地内に草花を植え、家族や近隣住民が来訪しやすい雰囲気づくりをしている。コロナ禍以前は、藤やバラなどの季節の花を見に来る近隣住民もいた。また、玄関はガラス張り、中の様子が見えやすくなっており、事務所から管理者等が来訪者に声をかけやすくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	リビングの壁には、季節ごとの切り絵や飾りを飾っている。花を生けたり、廊下には、お誕生日会や季節の行事の写真を張っている。居室には送付されてきた、家族やお孫さんの写真を飾っている。	◎	◎	◎	デイサービスが併設されている建物、畳の部屋があるなど、それぞれに違う構造となっている。また、事業所には環境委員があり、月々の目標を定めて、日々細やかな清掃や換気が行われ、快適な空間づくりをしている。また、廊下にはソファが置かれ、一人で読書を楽しむ利用者もいる。さらに、季節の飾り付けや生花が生けられているほか、窓からは敷地内の草木や周囲の田園風景が眺められ、利用者や来訪者は季節を感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	環境委員を中心に、細目に掃除をしている。また、カーペット交換やカーテン交換も実施している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等、出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜や果物にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や、利用者様の様子を見ながら、その都度工夫し対応している。廊下にソファを置き、一人で静かに過ごせる場所も作っている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた、家具や小物を持ち込んでいる方もいる。家族からの写真や絵はがきを飾ったり、自分好みにされている。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、ハンガー掛け、写真ボードが備え付けられている。利用者は、衣装ケースやたんすのほか、家族や孫の写真を飾るなど、暮らしやすいスペースを作っている。中には、すっきりと印象を受ける居室もある。また、早出の職員が毎朝居室の清掃を行い、清潔保持に努めている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには、日めくりカレンダーを作り、利用者様がめくれる様になっている。自室には、表札を作っている。トイレや浴室も分かりやすい様に表示している。			○	建物はバリアフリー構造で、車いすの利用者も移動しやすい動線が確保されている。また、居室に表札を付けているほか、トイレや浴室は分かりやすい表示が行われ、利用者が認識しやすいようにしている。中には、夜間に居室を間違える利用者もおり、頻回に続く場合には、医師に相談することもある。さらに、事業所では新聞を2紙取っており、順番に読む利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	テーブル上やカウンターに、季節の花を生けたり、壁には、季節の張り絵等を毎月飾っている。読書が好きの方は、園芸や好みの本、新聞をいつでも読める様にしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。	◎	◎	◎	職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関を施錠されておらず、夜間のみ防犯のため、21時から6時30分まで施錠をしている。また、日中には非常入り口以外の施錠は行われていない。さらに、玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。加えて、利用者が外に出ようとする場合には、制止することなく、職員が付き添い、散歩をするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今、現在鍵はかけていない。施錠を望む家族もいない。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでもすぐ確認が出来る様になっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は、生活記録に残している。職員にも引き継いでいる。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係性を築いている。日中は兼務の看護師に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族が希望する、かかりつけ医や医療機関で受診ができる様に支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月1回、連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続希望される場合、ご家族様が受診介助出来ない場合は、職員がお連れしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は、結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は、受診前後に、ご家族様に連絡・報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や、介護状態について、看護要約サマリーを作成し、病院に情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携を密にして、情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月3回当ホームに、西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時に主治医にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	個人カルテを作成し、服用している薬の説明分を読み理解している。また、生活記録に残し、家族・主治医に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時、職員2人で声を出しダブルチェックしている。服用後も飲み忘れがないか、薬箱のチェックもしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や、日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと、連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時点で最善の方針を共有している。				事業所には、「入居者の重度化および終末期ケアに対する指針」などが整備され、入居時に、家族等に事業所として対応できることや対応できないことなどを説明するとともに、緊急時対応などの同意を得ている。24時間体制での医療連携が図られ、利用者や家族の希望に応じて、事業所では看取り支援に対応可能となっているが、近年は看取り支援は実施されていない状況となっている。また、重度化や状態が悪化した場合には、家族や医師、看護師を交えて話し合い、最善の方針を共有している。中には、重度化に伴い、事業所で生活することが難しくなった場合には、他の施設等へ転院先を支援するほか、病院への救急搬送などの対応をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時点で最善の方針を共有している。		○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者・職員交えて、等ホームでどこまで支援が出来るか話合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来る事、出来ない事については、その時・その場で説明し、理解していただいている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者様がより良く暮らせる為に、連携病院の主治医等と連携して、チームで支援していく体制にしている。ホームでの生活が難しい様であれば、住み替えの提案も相談の上している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の意向は聞いている。利用料の支払いの期限等も出来る限り考慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で、随時学んでいる。コロナ過で研修会や講習会には参加できていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	勉強会で繰り返し手順を確認している。発生した時に、すみやかに処理出来るように、道具一式を揃えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	市報やインターネットを通じて、最新情報を入手している。グループ内の市民病院の患者発生情報等も、情報収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるような支援している。	◎	出勤時、外出時等、外に出た時は必ず手洗い・消毒体温測定・うがいをしている。来客者にもアルコール消毒・体温測定してもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ過で面会は出来ていないが、月1回に日常生活報告書にて報告している。また電話時に利用者様と変わり話してもらっている。	/	/	/	コロナ禍以前は、花見やクリスマス会などに家族の参加を呼びかけて、交流を図ることができていたが、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は自粛している。また、事業所には家族会が設置されており、年2回運営推進会議の終了後に開催し、家族同士の交流を図ることもできていた。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、事業所では、家族とのガラス越しの面会にも対応しているほか、リモートの面会にも対応をしている。また、年4回あたご通信を発行するほか、毎月利用者の状況を記載した日常生活報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。さらに、排泄用品などを持ってきた来訪時のほか、電話連絡時を活用して、職員は利用者の様子を伝えた上で、家族から意見や要望を聞くよう努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナ過で、外出・外食・面会等が出来ていない。リモート面会は実施している。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしふりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という情報誌を、年4回発行しており、行事に参加した様子を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き、日常の様子・体調等について報告している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	コロナ過で面会は出来ていないが、電話で家族様と話しをし、認知症への理解を得られる様になっている。出来ていた事が、出来なくなったり難しくなっている事も逐一報告している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	コロナ過で運営推進会議もできていないが、資料送付をして理解・協力を得られる様になっている。	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者様、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	リモート面会時や、電話での会話で明るく感じの良い話し方を心がけている。ご家族様の趣味の事をお聞きしたり、話やすい雰囲気を作っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時に、契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて、具体的に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、家族様と相談し、納得していただいている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	コロナ禍以前は、地域の祭りや運動会に参加したり、踊りや楽器演奏のボランティアが来訪したり、近隣住民が庭のバラや藤棚を見に来るなど、地域住民と交流を図ることができていた。また、コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、地域住民と交流できる機会は減少しているが、事業所周辺の散歩時に挨拶や会話を交わすほか、ボランティアの方が、飾り付けや小物を送付してくれるなどの交流を継続することもできている。また、事業所には、パンの移動販売の来訪があり、利用者は楽しみにしている。さらに、地域の老人クラブや婦人会、民生委員等が広報誌などで、情報を知らせてくれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあい、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が、地域にも浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてきている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の番傘や藤見学を再開したい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の番傘や藤見学を再開したい。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ過で、ボランティアの訪問も中止しているが、コロナが収まれば、ボランティアの歌謡ショーや日本舞踊、楽器演奏のショーを再開する予定にしている。訪問はないが、飾りや小物は送ってきている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ過で、訪問等は中止にしているが、収束すれば消防署来訪の心肺蘇生法講習や火災・地震対策予防講習等を再開する予定である。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブ、民生委員、介護相談員、市担当者などの参加を得て開催をしている。コロナ禍において、会議は書面開催となっており、参加メンバーのほか、一部の家族に会議資料を送付して、意見をもらうこともできている。今後は、全ての家族に会議資料を送付したり、コロナ禍の収束後には、全ての家族に会議開催を周知したりすることを期待したい。また、サービスの評価結果は、参加メンバーや全ての家族に資料を送付して、報告することができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	外部評価後は、資料を運営推進会議にて開示している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷の、運営理念を作成し、職員に周知し理念に基づいたケアに取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	コロナ過で、訪問を中止している。また、運営推進会議も行っていないが、収束すれば、面会時や会議時に以前の様に伝える予定。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	法人が大きいため、代表者の来訪はないものの、定期的に法人本部の職員の来訪があり、管理者等から報告を受けている。また、年間の研修計画を立てて、月1回程度勉強会を開催することができていたが、コロナ禍において、開催頻度が減っている。新入職員が入社した際には、利用者との会話やふれあいから始まり、徐々に調理や入浴介助、夜勤の順で、段階を踏まえた指導や育成が行われている。さらに、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得の支援もある。コロナ禍以前は、親睦会や食事会、スポーツ大会などが行われていたが、現在は開催が自粛されている。加えて、管理者は職員と話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員同士の信頼関係づくりにも気を配っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	出来る限り、希望に添える勤務にしている。夜勤や遅出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ過で、訪問したりされたりが、出来ない状態になっているが、社内での管理職会・施設長会・主任副主任会等で、情報交換している。収束すれば、積極的に講習・研修会等に参加させたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	コロナ過で、親睦会やスポーツ大会等は出来ていないが、面接を行い希望や要望を聞いている。	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	コロナ過で、外部の講習や研修会には参加できないが、ユニット会で身体拘束や虐待防止について、勉強している。また、各自が文献やインターネットで検索し勉強し理解している。	/	/	◎	定期的に、身体拘束や虐待の防止などの勉強会を実施するとともに、申し送り等を活用して、日々のケアの振り返りなどが行われている。時には、馴れ馴れしい言葉づかいやきつく感じる言葉も聞かれ、管理者やリーダーは当該職員に指導や注意喚起をしている。法人として、定期的にパワハラやセクハラなどの調査が行われ、働きやすい職場環境づくりに繋がっている。また、管理者は職員の言動や表情を観察を行い、必要に応じて、職員に声をかけて相談に応じるなど、疲労やストレスなどの配慮をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りしている。日々の体調やケアについて話し合いふりかえっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラについての調査をしている。日常でも、社員の態度や表情も観察している。事務所で個別に談話する事もある。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在では、その様な要望はないが、今後あっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら、理解を図っていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	ユニット会の勉強会で理解を深めている。家族の状況を踏まえ、情報提供や相談にのっている。ご家族様が遠方の方等は、代理で市役所へ書類手続きに行った事もある。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	家族様の兄弟間で、司法書士が間に入っている方もいるので、いつでも連絡出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員に通知しているが、新しい職員はまだ完全に把握できていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	コロナ過で、消防訓練は年2回行っているが、心肺蘇生法、AED取り扱い講習は、感染予防の為、出来ていない。文献やインターネット等で学習している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その都度、職員で話し合い、対応方法や注意する点を申し送り、事故防止に繋げている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者と24時間常時連絡が取れる体制に、連絡があれば、迅速に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの、問い合わせや要望があれば、管理者に報告相談し、対応している。転倒し入院等になれば市の長寿介護課に、文書で報告している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情は4年程ないが、問い合わせや要望は、管理者が職員と話し合い答えている。疑問や質問にたいしても、細かく答えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、事務所で1対1でゆっくりとお話を聞いている。	◎		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。コロナ禍以前は、市行政から介護相談員を派遣してもらい、利用者の話を聞いてもらうこともできていたが、現在は中止されている。また、管理者は、家族に「意見や要望を出して欲しい」と伝えており、来訪時や電話連絡時に、職員は意見を聞くよう努めているが、意見は少なくなっている。さらに、年2回管理者は職員との個別面談を実施するほか、日頃から職員の見解に耳を傾けている。職員から出された意見を反映して、メーカー等と相談を行い、リクライニングの車いすもリフト車に乗せることが可能となるなど、サービスの質の向上にも繋がっている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、電話時にゆっくりとお話を聞いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝、各ユニットの利用者様に、挨拶回りしており、その際に、職員の意見や要望も聞いている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に2回、面接を行っている。その他にも、普段から職員の話や、機会を持っており、利用者様の為にどうすべきか、話合っている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価の対象でない年も、管理者・職員で自己評価に取り組む、書類として残している。				自己評価は、職員全員で取り組み、管理者等が取りまとめて作成をしている。また、ユニット会等を活用して、職員にサービスの評価結果を説明し、目標達成に向けて取り組んでいるものの、コロナ禍において、実践できていないものもある。さらに、評価結果は、運営推進会議の参加メンバーや全ての家族に報告をしている。コロナ禍の収束後には、目標達成計画の取組み状況のモニターへの取組みが再開されることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、管理者・職員で話し合い、目標達成計画を作成し、ユニット会で職員に周知し、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。	○	◎	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	ジェイコムグループで、様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。	/	/	/	法人・事業所として、様々な災害対策マニュアルを整備し、職員に周知している。年2回、昼夜の火災などを想定した避難訓練を実施している。また、法人内の施設や事業所と、災害発生時の協力支援体制を構築することができている。さらに、災害に備えて、水や食料などの備蓄品を用意している。コロナ禍において、近隣住民との合同の避難訓練のほか、地域の防災訓練への参加は自粛しており、前回の目標達成計画に掲げていたが、実現には至っていない。コロナ禍の収束後には、地域住民や家族に避難訓練の参加を呼びかけて、合同訓練の実施を再開したり、集合形式の運営推進会議等を活用して、災害などをテーマに話し合ったりするなど、より地域との協力支援体制が強化されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間の時間帯を想定し、訓練しているが、2人体制・1人体制での訓練は出来ていない。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備・消火器の点検は、専門業者に依頼、規定どおり点検している。パンや水等も消費期限までに、点検交換している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ禍で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	○	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ禍で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げていく認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ禍で、会合はできないが、広報誌「あたご」を発行している。介護相談員や老人クラブ会長、民生委員に広報誌を郵送している。	/	/	/	事業所には、地域の高齢者や家族から相談が寄せられ、管理者等は適切に対応をしている。また、地域の関係者に、あたご通信を送付して、事業所の広報啓発をしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験を受け入れることもできていた。さらに、外国人の技能実習生の受け入れにも協力するとともに、働きやすいように居住スペースを確保している。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センター等が主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	コロナ禍で、見学は出来ないが、事務所でパソコンで施設紹介している。また入居相談も受けている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍で、施設内訪問は中止している。また、訪問も感染予防の為、出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	コロナ禍で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開予定	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	コロナ禍で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開また、地域のイベントにも参加したい。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 2 月 10 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3870600750
事業所名	グループホーム 丹原の郷
(ユニット名)	上町
記入者(管理者)	
氏名	濱田 寿男
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 4 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 入居者一人ひとりが自立した生活を営む事が出来るよう介護計画を作成し、身体面と心のケアを提供します。</p> <p>2. 一人ひとりが穏やかに、より生き生きと暮らせるよう環境を整え、安全で質の高いサービスが提供出来るように努めます。</p> <p>3. 主治医・協力病院と連携して、入居者が健康に生活出来るように援助します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだ事・その結果】</p> <p>〇コロナ過で、会合や会議・集会在中止になり、地域防災訓練にも参加できていない。収束すれば、家族や地域住民に來訪していただき、消火訓練等に参加してもらいたいと思っている。また、地域で開催される防災訓練等にも参加したいと思っている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市の郊外にある開設から20年目を迎える事業所は、近隣住民に浸透してきている。事業所周辺は田園が多く、庭にはバラや藤などの季節の花が植えられ、利用者や来訪者は四季の移ろいを感じる事ができる。コロナ禍以前は、多くの外出行事を取り入れ、様々な場所に出かけることができていたが、コロナ禍において、外出制限が設けられ、外出する機会が減っているものの、事業所周辺の環境を活かして、日頃から散歩したり、庭に出て外気浴をしたり、病院の受診時に遠回りをして、海岸線をドライブを楽しんだりするなど、利用者が少しでも気分転換を図れるよう支援している。また、感染状況を見計らいながら、家族にはガラス越しの面会に対応するほか、リモート面会にも対応している。さらに、年4回あたご通信を発行するとともに、毎月利用者の状況を記載した日常生活報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。加えて、事業所には介護ソフトが導入され、年配の職員は、タブレットの活用による不安や負担を感じる場合があるものの、使いこなしながら、職員の負担軽減に繋がっている。</p>
--	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	日々の会話の中から希望を聞き、職員で話合っている。	◎	/	○	入居前に、管理者等は自宅や施設を訪問して、利用者や家族から、思いや暮らし方の希望、意向などを聞いています。また、日々の何気ない会話の中から、担当職員は利用者から思いなどを聞くよう努めるとともに、家族から電話連絡時等を活用して、好みなどの情報を聞くようにしています。さらに、把握した内容は独自のアセスメントシートに記載し、職員間の共有に努めています。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	職員間で本人の視点に立て、意見を出し合う様になっている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族や親戚の電話時に本人の好きな事や、希望・意向を聞き出している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日常会話から、食べたい物や、やりたい事等日常生活記録に記載している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日常から、思い込みが起らないように、職員間で良く話合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族や利用者様から、生活環境、暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。	/	/	○	入居前に、管理者等は自宅や施設等を訪問して、独自のアセスメントシートやできること・できないシートを活用して、利用者や家族から馴染みの暮らし方や生活歴などの聞き取りをしている。コロナ禍において、病院等に入所している場合は、面会することができないことがあり、管理者等が窓越しに利用者の様子を観察するほか、病院等の関係者から入院した経緯などを聞いたり、サマリーなどの情報の提供を受けたりすることもある。また、日々の生活の中で、担当職員は利用者から新たな情報を聞き取るよう努めている。中には、発言することが難しい利用者もあり、職員は行動や様子を観察したり、家族等から好みや趣味などの新たな情報を聞いたりするなど、少しでも多くの情報収集に努めている。加えて、把握した情報は独自のアセスメントシートに記載するとともに、介護計画の更新時には、シートなどの情報の更新に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	できる事・できない事シートを活用し、状態が変わればその都度話合っている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の生活の中での様子を記録し、職員間で引き継ぎ情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	毎月、ユニット会で話合っている。必要に応じて、その日の出勤者でも話合っている。	/	/	○	事前に、担当職員が利用者や家族から意見を聞くほか、往診時に医師や看護師から指示やアドバイスをもらい、事前に把握した情報をもとに、ケアカンファレンスを活用して、職員間で課題を把握するほか、より良く暮らすためのサービス提供などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	ユニット会で職員間で検討している。電話時には主介護者様にも適宜相談している。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	利用者様や家族の意向を踏まえて、職員間で話合っ介護計画を作成している。	/	/	/	コロナ禍において、面会制限が設けられているため、家族や関係者が参加したケアカンファレンスの開催はできておらず、事前に担当職員等が利用者や家族から意見を聞くとともに、関係者から指示やアドバイスをもらっている。また、把握した情報やモニタリング等の情報をもとに、ユニット会を活用してケアカンファレンスを開催し、職員間で意見を出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、利用者や家族の意向が反映された計画となるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	3か月に1回、モニタリングを行い、状態の変化に対応している。利用者様や家族の意向を踏まえた上で、介護計画を作成している。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	個々のファイルを用意し身体状況、食事量、水分量、排泄等の記録をして状況に応じている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	◎	コロナ過で会議は出来ていないが、電話で運営推進会議メンバーの方と意見交換をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアカンファレンスを3か月に1度見直している。状態が変わればその都度見直している。	/	/	/	○ 担当職員等は、ケアカンファレンスに参加して、介護計画に内容の把握に努めるとともに、参加できなかった職員には、作成した計画のコピーを手渡し、計画作成担当者が変更点などの説明をしている。また、個別のファイルを事務所に置くとともに、タブレットを活用して、いつでも計画を確認できるようになっている。また、事業所には介護ソフトが導入されており、タブレットを活用して、井や番号を記載して、生活記録等に計画に沿ったサービス内容を記録することができている。さらに、普段と変わった言動などを細かく記載することもできている。年配の職員は、タブレットの活用による不安や負担を感じる場合があるものの、使いこなしながら、職員の負担軽減に繋がっている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	生活記録用紙に記載し、介護計画にそって日々の支援を行っている。実行できた事項を確認している。	/	/	/	◎	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に1度見直しを行っている。状態変化がなければ6か月後に作成している。	/	/	/	◎	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	ユニット会や日々の申し送り、一人ひとり利用者の変化等について話合っている。	/	/	/	△	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人や家族の要望を取り入れながら、介護計画の見直しをしている。また、状態変化が生じた場合も家族と連携をし適宜見直している。	/	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	ユニット会で話し合い、相談している。緊急時はその都度行っている。	/	/	/	○	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	リーダーが中心となり、若い職員や新入社員が委縮しないような雰囲気になっている。	/	/	/	○	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	当日勤務の職員以外は、出席している。急用等で出席出来なかった職員は、議事録を熟読し内容を把握している。	/	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノート、ユニット会議議事録、生活記録等に記入し、家族と連絡・相談した事等も、職員全体に伝わるようにしている。	/	/	/	◎	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	日々の会話の中で、その人の思いをくみ取っている。	/	/	/	/	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	衣服やパジャマ等をどちらがほしいか選んでもらっている。家事手伝い等何がしたいか選んでもらっている。	/	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人ひとりの様子を見ながら、職員中心にならないように支援している。	/	/	/	/	
		d	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	本人が好きなお話や、出来そうな事を勧めたり、声掛けし、雰囲気作りをしている。	/	/	/	/	◎
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	◎	利用者様が、何かしたい時やしてもらいたいと感じられる時は行動に移している。	/	/	/	/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声をかけないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	常に、利用者様は人生の先輩だということをわずれずに、敬いを持って、職員全員、意識して声掛けしている。	◎	◎	○	高齡化や重度化に伴い、利用者のやりたいことなどの発言が少なくなってきた。時には、「焼肉を食べに行きたい、喫茶店に行きたい、家に帰りたい」などの意見が出されるが、コロナ禍の外出などの制限が設けられ、実現できないこともある。また、着る服や飲み物、調理の手伝い、レクリエーションなど、職員は利用者へ声をかけ、自己決定できる機会を設けている。さらに、昔の高校野球や好きなボクシングなどの話題を提供したり、散歩時に野菜や花を觀賞したりするなど、職員は利用者の活き活きとした表情が見られ、笑顔で楽しみのある生活が送れるよう支援している。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレや入浴時は必ず戸は閉めている。また入浴時女性職員に交代したりと配慮している。	/	/	/		
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	シーツ交換時や入室時は、必ず声掛けした後に入室するようにしている。訪室する際は必ずノックしている居室にいない時は戸は閉めている。	/	/	/		◎
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	会社外に出れば、社内の出来事は話していない。職員にも周知徹底している。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	家事仕事や洗濯物たたみ等できる事は協力してもらっている。また、してもらったり、教えてもらったりした場合は、感謝の気持ちを伝えていく。				調理の下ごしらえや盛り付け、洗濯物干しやたたみなどを手伝ってもらったり、文字の書き順や酢の物などの味付けを教えてもらったりした場合には、職員は利用者へ感謝の言葉を伝えていく。また、車いすを他の利用者が押したり、利用者同士で励ましの声かけをしたりするなど、助け合う場面も見られる。さらに、利用者同士の関係性を把握し、配席などの配慮をしている。時には、耳の遠い利用者が反応をせずに、言い合いなどのトラブルになることも見られるため、職員は早期に間に入り、居室などの他の場所に移動して、話しを聞いたりするなどの対応をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	人間は一人では生きていけない、助けあって生きていく事を理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	テーブルの座る位置等、利用者様が助け合って、仲良く過ごせるように配慮している。孤立しがちな利用者様も、職員が媒体になり、馴染めるように配慮している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	職員が仲介し、支援している。ソファーに並んで座り談話したり、隣席どおし協力し合い家事等してもらっている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	利用者様や家族から情報収集しているが、昔の事を話したらない利用者様や家族もいる。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ過で外出できていないが、年賀状のやりとりや電話で話したりしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	コロナ過で外出はできていないが、天気の良い日は必ず、外気浴・日光浴をしている。ホームに咲いている季節の花を見て、春夏秋冬を感じてもらっている。	○	×	○	コロナ禍において、事業所では外出できる機会が減少しているが、天気のいい日には、事業所周辺を散歩したり、庭に出て外気浴をしたり、敷地内に植えられた季節の花を観賞したりするなど、利用者が少しでも気分転換が図れるよう支援している。また、病院の受診時に、うどんを食べて帰ったり、遠回りをして、海岸線をドライブを楽しんだりすることもある。さらに、重度の利用者も、車いす等を使用して、同様の外出支援をしている。加えて、外食等ができない代わりに、おやつやサンドイッチなどを作って、事業所内でお茶を楽しむ機会を設けるなどの工夫をしている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ過の前は、菊の花や季節の花を見に、地域の方の家にも訪問していたが、現在は出来ない。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ユニット会で話合ったり、日々の申し送りや伝えたり、職員で検討し、寄り添いケアをしている。				職員は、勉強会で認知症の行動や心理状態などを学ぶとともに、ユニット会などを活用して、利用者の行動や認知症状などの対応を検討している。また、散歩や歩行訓練、手足の体操、拘縮のリハビリなどを取り入れ、利用者の心身機能の維持が図れるよう支援している。さらに、事業所では、できること・できないシートを活用して、利用者一人ひとりのできることを把握しており、利用者自身でできることはしてもらい、職員は見守りやできない部分の介助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	廊下歩行や手足の体操、口腔体操を行っている。拒否される方もいるが、気長に声掛けしている。出来ない方は職員が介助している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来る事は、自力でしてもらっている。危険な時は介助している。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	一人ひとりの、嗜好や趣味を把握し、楽しみを持って生活が出来る様に支援している。				洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえや盛り付けなど、職員は利用者一人ひとりの趣味や嗜好などを把握して、役割や出番を担ってもらえるよう支援している。利用者の高齢化や重度化に伴い、できる役割や出番は少なくなっているものの、座ってできるテーブル拭きや野菜ちぎりなどをしてもらったり、日めくりカレンダーをめくることを日課にしたりするなど、些細なことでも、できる役割などを担ってもらえるよう取り組んでいる。また、音好きだった話題を話したり、散歩時に野菜の花や稲の成長を鑑賞したりする場合には、利用者の活き活きとした表情も見られる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	レベルが進んでも、個々に出来る事を、日常の会話やふれあいによって、職員が見つつけ出し、楽しみを持って生活してもらっている。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	自分の選んだ衣服やパジャマに着替えてもらっている。	/	/	/	毎朝、自分で服を選んで着替え、整容を整えることのできる利用者もいる。また、電気シェイパーを職員が渡し、器用に髭剃りをしている利用者もいる。時には、整容の乱れや汚れも見られることもあり、職員はさりげなくフォローをしている。さらに、2〜3か月に1回、訪問理容の来訪もあり、利用者の好みの髪型に散髪をしている。加えて、重度な利用者にも、朝夕に着替えてもらい、メリハリのある生活が送れるよう支援するとともに、朝は温かいタオルを渡し、顔の可能な部分を拭いてもらい、できない部分の介助をするなど、その人らしい生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	個別にヘアブラシを用意している。散髪はホームに来てもらって、好みの髪型にさせている。	/	/	/	
		c	自己決定がにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	起床後には、一緒に鏡を見ながら、髪型を整えたりその人らしくられる様に支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	◎	適した服装を、職員と一緒に談笑しながら相談している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	利用者様のプライドを大切にし、声に出す事なく、さりげなくカバーしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにてボランティア(有償)の方に、散髪してもらっている。本人・家族もそれを望んでいる。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	毎日、本人らしさが保てるように、髪型や服装に気を付けている。	/	/	◎	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べてもらえる様に、食器や彩にも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	おいしく食べてもらえる様に、食器や彩にも配慮し、楽しい食事が出来る様にしている。	/	/	/	月単位で、利用者の好みのメニューを取り入れながら、献立を作成し、週2回スーパーに買い出しに出かけて、利用者野菜切りなどの調理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、下膳などを手伝ってもらいながら、各ユニットのキッチンで職員が調理をしている。また、業者からパランスの取れた湯煎する食材も届けられ、調理との使い分けを行い、利用者に食事を提供している。アレルギーのある利用者は現在いないものの、苦手な食材のある場合には、代替の食材などを用意している。利用者の状態に合わせて、刻みやミキサー食、トロミなどの食の形態にも対応している。コロナ禍以前は、近隣の喫茶店や飲食店に、外食に出かけることもできていた。また、誕生日には、ケーキを用意するとともに、利用者が希望するおかずを2品加えるなどの工夫もしている。食器類は、入居時に使い慣れた物を持ち込んでもらうほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。食事の際に、職員は利用者と会話をしながら、見守りやサポートを行い、コロナ禍において、別々に食事を摂っている。また、全ての利用者がリビングに出て、食事を摂ることができおり、重度の利用者も、可能な範囲で口腔体操を行い、調理の音や匂いを感じることができている。時には、インスタントのカレーやラーメンを提供したり、「食べたくない」という利用者に対して、弁当を買いに出かけ、提供するなどの工夫もしている。さらに、献立作成を含めて、職員間で調理方法やパランスなどを話し合うこともできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物・献立・食材選びは職員がしている。野菜切りや下膳等はしてもらっている。中には出来ない人もいる。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	声掛けにて、盛り付け等は一部の利用者様にしてもらっており、残存能力維持・達成感に繋げている。中には出来なくなっている人もいる。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	牛乳やコーヒーが苦手なご利用者様には、ジュースや別の飲み物を提供している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	◎	春夏秋冬、旬の物を取り入れ、季節感を味わっていたり、利用者様も喜ばれている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の状態や体調により、刻みやミキサー食にする事もあるが、献立によって、色とりどりの器にしたり、工夫して盛り付けをしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	持ち込みで、使い慣れた物を使用している。床に落ちて危険な方は、プラスチック製の食器を使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と会話をしながら、むせ込みのある人や食べこぼしのある人等は、さりげなくサポートしている。コロナウイルス感染予防の為、一緒に食べていない。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングにて、皆様と生活している事で、調理の匂いや音で、視覚・嗅覚が刺激され、待ち遠しい素振りを見せられる利用者様もいる。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事量、栄養バランス、水分摂取量、しっかりと確保できている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	一人ひとりに合った形態で援助し、時には介助にて摂取してもらっている。摂取量に合わせ、高カロリー食品や飲料を摂取してもらっている。利用者様もいる。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	職員間で話し合い、その都度行っている。利用者様の事を考えて献立を立てている。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	手洗いの励行、まな板の消毒、食材の賞味期限の確認等に気を付けている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	利用者様、一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの介助を行っている。	/	/	/	半年ぐらい前までは、定期的に歯科医を受診している利用者がいたが、現在は利用者の訴えや虫歯などが見られた場合のみ、歯科医の受診に繋げている。また、毎食後に、職員は声をかけて、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。さらに、自分で歯磨きをしている利用者を含めて、全ての利用者の口腔内の状況を確認することができている。加えて、義歯は夜間に預かり、洗浄するほか、消毒液に浸けている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	虫歯、義歯の異常があれば、歯科受診している。舌や口腔内も、口腔ケア時に確認している。	/	/	/	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診した時に、義歯の洗浄の仕方についてや口腔ケアの仕方について教えていただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来る方は自分でしてもらっている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	自力で出来る方は自分でしている。週1回入歯洗浄剤にて洗浄している。口腔ケア時に出血や炎症のチェックは職員がしている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	トイレでの排泄を常に促している。出来る限り、オムツや紙パンツ類の使用をせず、排泄が出来る様に支援している。	/	/	/	事業所には、おむつをしている利用者があるほか、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。中には、声かけをすることにより、布パンツで過ごすことのできている利用者もいる。また、排泄チェック表で、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、定期的に職員は声かけをするほか、利用者のリズムに合わせて、声かけやトイレ誘導をしている。さらに、パッドや紙パンツなどの排泄用品の使用時には、判断可能な利用者には意見を聞いて選んでもらうとともに、職員間で適切な用品の使用を話し合い、家族に相談確認の上で、使用している。加えて、ヨーグルトやバナナ、水分補給、体操などを取り入れるほか、必要に応じて、軟便剤を使用するなど、利用者による自然な排便が行えるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘による様々な弊害を理解し、廊下歩行や散歩・体操を促している。出ない場合は緩下剤を服用している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を使用し、職員全員で排泄パターンを把握して支援している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	排泄パターンを把握して、変化があれば、ユニット会で議題に上げて、検討・見直しを行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排泄チェック表で日々確認し、職員間で情報を共有し、その都度、看護師も交えて検討し、対策を実施している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々のパターンに合わせて、必要な場合は、声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	必ずユニット会で検討し、家族様に連絡し相談している。理解できる利用者様は、自分で選択してもらっている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者様の状態に合った、紙オムツ・紙パンツ・パッドを使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	朝食時のヨーグルトバナナ・スタミン等便通が良くなる食材を摂っている。食後のトイレ誘導、廊下歩行、手足の体操の運動にも取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の前で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	高齢で体力的に毎日入れない方は、2〜3日に1回の方もいる。湯舟を跨げない方や転倒の危険性のある方はシャワー浴している。	◎	/	○	利用者は、2〜3日に1回入浴することができる。以前は、頻回入浴を希望する利用者もおり、柔軟に対応することができていたが、利用者の高齢化や重度化に伴い、現在はそこまで希望する利用者はいなくなっている。また、湯船を跨げない場合や、転倒の危険性のある利用者には、シャワー浴などの対応をしている。中には、入浴好きで、一度入るとなかなか出ようとしにくい利用者もいる。さらに、利用者の体調面を考慮しながら、職員は湯の温度や湯船に浸かる長さ、入浴剤の有無など、可能な範囲で柔軟に対応している。季節に応じて、菖蒲湯やみかん湯にするなどの支援もしている。加えて、入浴を拒む利用者には、希望する職員が入浴支援をしたり、時間帯や職員を変えて、声かけをしたりするなどの工夫もしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	入浴されている時、昔話をしたり、家族の事を話したり、談笑されながら入浴している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る限りの入浴動作の自立を促している。湯舟を跨げない方や転倒の危険性がある方はシャワー浴している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴時間帯や声掛けをするタイミングを工夫する事で入浴出来ている。必要に応じて、男女職員を交代し、羞恥心に配慮している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前に必ずバイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、入浴の可否を見極めている。入浴後も水分補給等に気を配っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	テレビを観てから入室される方もいるし、個々の睡眠パターンを把握している。				事業所には、眠剤などの服薬をしている利用者もいるが、医師に報告や相談を行い、服薬の影響が残り、ふらつきなどの転倒防止に努めており、必要以上に飲みすぎないように薬の量を調整している。また、日中の工作やぬり絵のレクリエーションや体操などの活動量を増やしたり、外気浴をしたり、昼寝時間を調整するなど、職員は利用者が夜間に良眠できるよう支援している。さらに、畳の部屋があるユニットもあり、必要に応じて、利用者に昼寝や仮眠を促している。中には、夜間に眠れない利用者もあり、リビングで利用者とホットミルクなどを飲みながら会話をし、眠りそうなタイミングで、居室へ誘導するなどの対応もしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中の活動量を増やしたり、日中の居室での仮眠時間を減らしたり等して、夜間の睡眠が取れる様に支援している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	外気浴に行ったり、工作、塗り絵、手足の体操をしたり、できるだけ薬剤に頼らない支援を心がけている。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	自室や和室にて臥床し休んでもらっている。一人でいたい方は廊下のソファに座られている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。年賀状や暑中見舞いのハガキのやりとりを、職員と一緒に文面を考えたりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	携帯電話を持たれている方は、家族と良く話されている。持っていない方は電話を取りつき談話されている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのまませず音信がとれるように工夫している。	◎	本人様に伝えたり、家族様に連絡したり、音信がとれる様に支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	携帯電話を持たれている方は、良く話されている。家族様からもよく、電話や手紙や季節の絵を描かれたハガキが届いている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ過で外出していない。買い物も行っていない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	理解しているが、今現在は所持していない。紛失等のリスクも高く、家族もそれを望んでいる。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様と相談の結果、現在はお金を所持していない。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	その都度、本人様・家族様と相談し、意向に添った支援に努めている。病院の受診介助等、柔軟に対応している。	◎		○	コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、外食などに対応できなくなっている。事業所では、系列病院の医師にかけつけ医の変更をお願いしているが、利用者や家族の要望で、継続している利用者もいる。また、病院受診を管理者等が同行支援することもある。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関先や建物の周辺に、春夏秋冬の色とりどりの草花いつでも見に来ていただける様にしているが、コロナ過で現在は出入りはしていない。	◎	◎	◎	事業所では、玄関先や敷地内に草花を植え、家族や近隣住民が来訪しやすい雰囲気づくりをしている。コロナ禍以前は、藤やバラなどの季節の花を見に来る近隣住民もいた。また、玄関はガラス張り、中の様子が見えやすくなっており、事務所から管理者等が来訪者に声をかけやすくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない程風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそくような設えになっていない等。)	◎	リビングの壁には、季節ごとの切り絵や飾りを飾っている。花を生けたり、廊下には、お誕生日会や季節の行事の写真を張っている。居室には送付されてきた、家族やお孫さんの写真を飾っている。	◎	◎	◎	デイサービスが併設されている建物、畳の部屋があるなど、それぞれに違う構造となっている。また、事業所には環境委員があり、月々の目標を定めて、日々細やかな清掃や換気が行われ、快適な空間づくりをしている。また、廊下にはソファが置かれ、一人で読書を楽しむ利用者もいる。さらに、季節の飾り付けや生花が生けられているほか、窓からは敷地内の草木や周囲の田園風景が眺められ、利用者や来訪者は季節を感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	環境委員を中心に、細目に掃除をしている。また、カーペット交換やカーテン交換も実施している。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食材切り等、出来る事を手伝ってもらったり、旬の野菜や果物にふれたり、季節感のある食事メニュー作りやユニット内の装飾に努めている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席の配置や、利用者様の様子を見ながら、その都度工夫し対応している。廊下にソファを置き、一人で静かに過ごせる場所も作っている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	自宅で使用していた、家具や小物を持ち込んでいる方もいる。家族からの写真や絵はがきを飾ったり、自分好みにされている。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、ハンガー掛け、写真ボードが備え付けられている。利用者は、衣装ケースやたんすのほか、家族や孫の写真を飾るなど、暮らしやすいスペースを作っている。中には、すっきりと印象を受ける居室もある。また、早出の職員が毎朝居室の清掃を行い、清潔保持に努めている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	リビングには、日めくりカレンダーを作り、利用者様がめくれる様になっている。自室には、表札を作っている。トイレや浴室も分かりやすい様に表示している。			○	建物はバリアフリー構造で、車いすの利用者も移動しやすい動線が確保されている。また、居室に表札を付けているほか、トイレや浴室は分かりやすい表示が行われ、利用者が認識しやすいようにしている。中には、夜間に居室を間違える利用者もおり、頻回に続く場合には、医師に相談することもある。さらに、事業所では新聞を2紙取っており、順番に読む利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	テーブル上やカウンターに、季節の花を生けたり、壁には、季節の張り絵等を毎月飾っている。読書が好きの方は、園芸や好みの本、新聞をいつでも読める様にしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	職員全員、鍵をかける事の弊害を理解し、鍵をかけていない。	◎	◎	◎	職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。日中に、玄関を施錠されておらず、夜間のみ防犯のため、21時から6時30分まで施錠をしている。また、日中には非常入り口以外の施錠は行われていない。さらに、玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。加えて、利用者が外に出ようとする場合には、制止することなく、職員が付き添い、散歩をするなどの対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	今、現在鍵はかけていない。施錠を望む家族もいない。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	生活歴やアセスメント等を行い、カルテに閉じており、いつでもすぐ確認が出来る様になっている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	普段と違った様子やバイタル測定結果の時は、生活記録に残している。職員にも引き継いでいる。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	施設長と24時間連絡が取れる体制である。西条市民病院と連携病院であり、相談できる関係構築している。日中は兼務の看護師に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	家族が希望する、かかりつけ医や医療機関で受診ができる様に支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	月1回、連携病院の往診を受けている。かかりつけ医を継続希望される場合、ご家族様が受診介助出来ない場合は、職員がお連れしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	ご家族様が同行する場合は、結果を聞き次に繋げている。職員が同行する場合は、受診前後に、ご家族様に連絡・報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	ホームでの状態や、介護状態について、看護要約サマリーを作成し、病院に情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携を密にして、情報交換に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	月3回当ホームに、西条市民病院の主治医の往診があり、事前に看護師に相談している。往診時に主治医にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	西条市民病院が連携病院であり、24時間いつでも相談出来る体制である。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	個人カルテを作成し、服用している薬の説明分を読み理解している。また、生活記録に残し、家族・主治医に報告している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服用時、職員2人で声を出しダブルチェックしている。服用後も飲み忘れがないか、薬箱のチェックもしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	朝・昼のバイタル測定や、日常の様子観察をしている。いつもと様子が違うと、連携病院の看護師に相談し受診する場合もある。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時点で最善の方針を共有している。				事業所には、「入居者の重度化および終末期ケアに対する指針」などが整備され、入居時に、家族等に事業所として対応できることや対応できないことなどを説明するとともに、緊急時対応などの同意を得ている。24時間体制での医療連携が図られ、利用者や家族の希望に応じて、事業所では看取り支援に対応可能となっているが、近年は看取り支援は実施されていない状況となっている。また、重度化や状態が悪化した場合には、家族や医師、看護師を交えて話し合い、最善の方針を共有している。中には、重度化に伴い、事業所で生活することが難しくなった場合には、他の施設等へ転院先を支援するほか、病院への救急搬送などの対応をしている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	状態が悪化した場合は、家族や連携病院の主治医看護師と連携を密にし、相談検討し、その時・その時点で最善の方針を共有している。		○	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	管理者・職員交えて、等ホームでどこまで支援が出来るか話合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	出来る事、出来ない事については、その時・その場で説明し、理解していただいている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	利用者様がより良く暮らせる為に、連携病院の主治医等と連携して、チームで支援していく体制にしている。ホームでの生活が難しい様であれば、住み替えの提案も相談の上している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族の意向は聞いている。利用料の支払いの期限等も出来る限り考慮している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会等で、随時学んでいる。コロナ過で研修会や講習会には参加できていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	勉強会で繰り返し手順を確認している。発生した時に、すみやかに処理出来るように、道具一式を揃えている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	市報やインターネットを通じて、最新情報を入手している。グループ内の市民病院の患者発生情報等も、情報収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるような支援している。	◎	出勤時、外出時等、外に出た時は必ず手洗い・消毒体温測定・うがいをしている。来客者にもアルコール消毒・体温測定してもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	コロナ過で面会は出来ていないが、月1回に日常生活報告書にて報告している。また電話時に利用者様と変わり話してもらっている。	/	/	/	コロナ禍以前は、花見やクリスマス会などに家族の参加を呼びかけて、交流を図ることができていたが、コロナ禍において、家族の参加できる行事の開催は自粛している。また、事業所には家族会が設置されており、年2回運営推進会議の終了後に開催し、家族同士の交流を図ることもできていた。コロナ禍において、外出や面会などの制限が設けられ、事業所では、家族とのガラス越しの面会にも対応しているほか、リモートの面会にも対応している。また、年4回あたご通信を発行するほか、毎月利用者の状況を記載した日常生活報告書を送付して、利用者の近況を伝えている。さらに、排泄用品などを持ってきた来訪時のほか、電話連絡時を活用して、職員は利用者の様子を伝えた上で、家族から意見や要望を聞くよう努めている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	△	コロナ過で、外出・外食・面会等が出来ていない。リモート面会は実施している。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしふりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	「あたご通信」という情報誌を、年4回発行しており、行事に参加した様子を伝えている。また、月1回日常生活報告書を書き、日常の様子・体調等について報告している。	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	コロナ過で面会は出来ていないが、電話で家族様と話しをし、認知症への理解を得られる様になっている。出来ていた事が、出来なくなったり難しくなってきた事も逐一報告している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	コロナ過で運営推進会議もできていないが、資料送付をして理解・協力を得られる様になっている。	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	利用者様、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明している。夜勤帯は一人体制の為、転倒等のリスクがある事を説明している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	リモート面会時や、電話での会話で明るく感じの良い話し方を心がけている。ご家族様の趣味の事をお聞きしたり、話やすい雰囲気を作っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時に、契約内容、締結、解約について、重要事項説明書にて、具体的に説明している。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	状態の変化等により、退居になる場合は連携病院の主治医や看護師、ソーシャルワーカーと連携し、家族様と相談し、納得していただいている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	コロナ禍以前は、地域の祭りや運動会に参加したり、踊りや楽器演奏のボランティアが来訪したり、近隣住民が庭のバラや藤棚を見に来るなど、地域住民と交流を図ることができていた。また、コロナ禍において、外出や面会の制限が設けられ、地域住民と交流できる機会は減少しているが、事業所周辺の散歩時に挨拶や会話を交わすほか、ボランティアの方が、飾り付けや小物を送付してくれるなどの交流を継続することもできている。また、事業所には、パンの移動販売の来訪があり、利用者は楽しみにしている。さらに、地域の老人クラブや婦人会、民生委員等が広報誌などで、情報を知らせてくれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあい、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	グループホームの存在意義が、地域にも浸透してきており、暖かく挨拶や声掛けをしてきている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の書棚や藤見学を再開したい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	コロナ過で、施設内の敷地内には来られていないがコロナが収まれば、庭の書棚や藤見学を再開したい。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	コロナ過で、ボランティアの訪問も中止しているが、コロナが収まれば、ボランティアの歌謡ショーや日本舞踊、楽器演奏のショーを再開する予定にしている。訪問はないが、飾りや小物は送って来ている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ過で、訪問等は中止にしているが、収束すれば消防署来訪の心肺蘇生法講習や火災・地震対策予防講習等を再開する予定である。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブ、民生委員、介護相談員、市担当者などの参加を得て開催をしている。コロナ禍において、会議は書面開催となっており、参加メンバーのほか、一部の家族に会議資料を送付して、意見をもらうこともできている。今後は、全ての家族に会議資料を送付したり、コロナ禍の収束後には、全ての家族に会議開催を周知したりすることを期待したい。また、サービスの評価結果は、参加メンバーや全ての家族に資料を送付して、報告することができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	外部評価後は、資料を運営推進会議にて開示している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	コロナ過で、運営推進会議も行っていないが、資料広報誌を送付している。	/	◎	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	グループホーム丹原の郷の、運営理念を作成し、職員に周知し理念に基づいたケアに取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	コロナ過で、訪問を中止している。また、運営推進会議も行っていないが、収束すれば、面会時や会議時に以前の様に伝える予定。	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	法人が大きいため、代表者の来訪はないものの、定期的に法人本部の職員の来訪があり、管理者等から報告を受けている。また、年間の研修計画を立てて、月1回程度勉強会を開催することができていたが、コロナ禍において、開催頻度が減っている。新入職員が入社した際には、利用者との会話やふれあいから始まり、徐々に調理や入浴介助、夜勤の順で、段階を踏まえた指導や育成が行われている。さらに、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得の支援もある。コロナ禍以前は、親睦会や食事会、スポーツ大会などが行われていたが、現在は開催が自粛されている。加えて、管理者は職員と話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員同士の信頼関係づくりにも気を配っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	新しい職員には、利用者様との会話やふれあいから始まり、徐々に段階を踏んで、料理・入浴介助・夜勤の順で教育し、スキルアップに取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	出来る限り、希望に添える勤務にしている。夜勤や遅出を積極的にしてくれる職員も増えた。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	コロナ過で、訪問したりされたりが、出来ない状態になっているが、社内での管理職会・施設長会・主任副主任会等で、情報交換している。収束すれば、積極的に講習・研修会等に参加させたい。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	コロナ過で、親睦会やスポーツ大会等は出来ていないが、面接を行い希望や要望を聞いている。	/	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	コロナ過で、外部の講習や研修会には参加できないが、ユニット会で身体拘束や虐待防止について、勉強している。また、各自が文献やインターネットで検索し勉強し理解している。	/	/	◎	定期的に、身体拘束や虐待の防止などの勉強会を実施するとともに、申し送り等を活用して、日々のケアの振り返りなどが行われている。時には、馴れ馴れしい言葉づかいやきつく感じる言葉も聞かれ、管理者やリーダーは当該職員に指導や注意喚起をしている。法人として、定期的にパワハラやセクハラなどの調査が行われ、働きやすい職場環境づくりに繋がっている。また、管理者は職員の言動や表情を観察を行い、必要に応じて、職員に声をかけて相談に応じるなど、疲労やストレスなどの配慮をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	朝・夕2回申し送りを行っている。日々の体調やケアについて話し合いふりかえっている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	全社的に、パワハラやセクハラについての調査をしている。日常でも、社員の態度や表情も観察している。事務所で個別に談話する事もある。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	毎月のユニット会で、話し合っている。身体拘束や高齢者虐待等についての、勉強会もしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	現在では、その様な要望はないが、今後あっても、弊害について説明し、家族様と話し合いを重ねながら、理解を図っていく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	ユニット会の勉強会で理解を深めている。家族の状況を踏まえ、情報提供や相談にのっている。ご家族様が遠方の方等は、代理で市役所へ書類手続きに行った事もある。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	家族様の兄弟間で、司法書士が間に入っている方もいるので、いつでも連絡出来る体制にある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、職員に通知しているが、新しい職員はまだ完全に把握できていない。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	コロナ過で、消防訓練は年2回行っているが、心肺蘇生法、AED取り扱い講習は、感染予防の為、出来ていない。文献やインターネット等で学習している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成し、その都度検討し、再発防止に努めている。申し送りもしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	その都度、職員で話し合い、対応方法や注意する点を申し送り、事故防止に繋げている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	管理者と24時間常時連絡が取れる体制に、連絡があれば、迅速に対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	家族様からの、問い合わせや要望があれば、管理者に報告相談し、対応している。転倒し入院等になれば市の長寿介護課に、文書で報告している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情は4年程ないが、問い合わせや要望は、管理者が職員と話し合い答えている。疑問や質問にたいしても、細かく答えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、事務所で1対1でゆっくりとお話を聞いている。	◎		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。コロナ禍以前は、市行政から介護相談員を派遣してもらい、利用者の話を聞いてもらうこともできていたが、現在は中止されている。また、管理者は、家族に「意見や要望を出して欲しい」と伝えており、来訪時や電話連絡時に、職員は意見を聞くよう努めているが、意見は少なくなっている。さらに、年2回管理者は職員との個別面談を実施するほか、日頃から職員の見解に耳を傾けている。職員から出された意見を反映して、メーカー等と相談を行い、リクライニングの車いすもリフト車に乗せることが可能となるなど、サービスの質の向上にも繋がっている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	コロナ過で、介護相談員の来訪や、運営推進会議も開催出来ていないが、電話時にゆっくりとお話を聞いている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	毎朝、各ユニットの利用者様に、挨拶回りしており、その際に、職員の意見や要望も聞いている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	年に2回、面接を行っている。その他にも、普段から職員の話や、機会を持っており、利用者様の為にどうすべきか、話合っている。				
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価の対象でない年も、管理者・職員で自己評価に取り組む、書類として残している。				自己評価は、職員全員で取り組み、管理者等が取りまとめて作成をしている。また、ユニット会等を活用して、職員にサービスの評価結果を説明し、目標達成に向けて取り組んでいるものの、コロナ禍において、実践できていないものもある。さらに、評価結果は、運営推進会議の参加メンバーや全ての家族に報告をしている。コロナ禍の収束後には、目標達成計画の取組み状況のモニターへの取組みが再開されることを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	外部評価の後、管理者・職員で話し合い、目標達成計画を作成し、ユニット会で職員に周知し、取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。	○	◎	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	コロナ過で、家族会や運営推進会議を、感染予防の為、行えていないが、書類送付している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	ジェイコムグループで、様々な災害対策マニュアルを作成し、職員に周知している。	/	/	/	法人・事業所として、様々な災害対策マニュアルを整備し、職員に周知している。年2回、昼夜の火災などを想定した避難訓練を実施している。また、法人内の施設や事業所と、災害発生時の協力支援体制を構築することができている。さらに、災害に備えて、水や食料などの備蓄品を用意している。コロナ禍において、近隣住民との合同の避難訓練のほか、地域の防災訓練への参加は自粛しており、前回の目標達成計画に掲げていたが、実現には至っていない。コロナ禍の収束後には、地域住民や家族に避難訓練の参加を呼びかけて、合同訓練の実施を再開したり、集合形式の運営推進会議等を活用して、災害などをテーマに話し合ったりするなど、より地域との協力支援体制が強化されることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間の時間帯を想定し、訓練しているが、2人体制・1人体制での訓練は出来ていない。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備・消火器の点検は、専門業者に依頼、規定どおり点検している。パンや水等も消費期限までに、点検交換している。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ禍で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	○	○	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	年2回の消防訓練は実施しているが、コロナ禍で、他事業者の訪問を中止している為、合同や地域住民の参加は出来ていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げていく認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナ禍で、会合はできないが、広報誌「あたご」を発行している。介護相談員や老人クラブ会長、民生委員に広報誌を郵送している。	/	/	/	事業所には、地域の高齢者や家族から相談が寄せられ、管理者等は適切に対応をしている。また、地域の関係者に、あたご通信を送付して、事業所の広報啓発をしている。コロナ禍以前は、中学生の職場体験を受け入れることもできていた。さらに、外国人の技能実習生の受け入れにも協力するとともに、働きやすいように居住スペースを確保している。コロナ禍において、市行政や地域包括支援センター等が主催する会議や研修に参加する機会は減少しているものの、法人内の他のグループホーム等と協力をしながら、連携を図ることはできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	コロナ禍で、見学は出来ないが、事務所でパソコンで施設紹介している。また入居相談も受けている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍で、施設内訪問は中止している。また、訪問も感染予防の為、出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	コロナ禍で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開予定	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	コロナ禍で、施設内訪問は中止しているが、収束すれば、中学生の体験学習等、受け入れを再開また、地域のイベントにも参加したい。	/	/	○	